

僕のヒーローアカデミア「善悪相殺」取得RTA

荒木ラキ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ヒロアカのRTAもつと流行れ…

目次

本編 (1/n)	1
おまけ 1	9
本編 (2/n)	17
おまけ 2-1	25
おまけ 2-2	35
本編 (3/n)	48
おまけ 3-1	55
おまけ 3-2	63
本編 (4/n)	75
おまけ 4	84
本編 (5/n)	97

本編（1／n）

はーい、よーいすたーと。

鬼に逢うては鬼を斬る。仏に逢うては仏を斬る。なRTAはーじまーるよー。

本RTAの目的はのっぺらぼうおじさんオールフオーワンと平和の象徴オールマイトの両者を殺害して手に入る称号「善悪相殺」を獲得することです。

なおここで言うオールフオーワンの殺害はのっぺらぼうおじさんの肉体の破壊を指しているため、某名前が変化したおじさんが保管している個性因子としてのAFOをどうにかする必要はありません。

分かりやすく言うと後継者である死柄木弔に関しては生死問わずということです。

さて、当然この2人の殺害を目指すにあたっては2人とも弱体化している原作開始後の時間軸で行うのが定石となっております。一応全盛期のオールフオーワンとオールマイトの戦いに乱入する三つ巴ルートもあるにはあるのですが、個性黎明期からのブリードを繰り返して最強個性でも作り上げるか、不老系統の個性を取り、人生の大半を修行に捧げてようやく戦場に立てるかどうかなのでほぼ不可能と言っていいでしょう。

勿論RTAなのでそれが最速ならばそれをするのですが……作品内時間換算でおよ

そ100年に渡る厳選、あるいは修行だけを映し続けるのはもう気が狂う！ 絵的にも地味だし、しかも最速でもありません。一種の極限縛りプレイのようなものですね。

ということで原作時間軸……より具体的には神野区の悪夢での戦いに乱入して漁夫の利を得ようというのが本RTAの大雑把なチャートとなります。卑怯？ 汚い？ そんなの敗者の戯言だから。

理想を言えばオールマイトがオールフォーワンに最後の一撃を決めた後の、オールマイトによる勝利の決めポーズ、あそこで乱入したいですね。どちらも弱りきっているのでおそらく相当簡単に殺害が出来ます。まあそのタイミングで乱入が出来るのかという問題がありますが。

ところで、神野の戦いに乱入すると聞いて皆様はどんなプレイスタイルを想像したでしょうか？ デクくん達と一緒に爆豪を助けに行つてそのまま残留？ 死柄木達の仲間になってどうにか転送を避けて残留？ 残念ながらこのどちらのプレイスタイルでも善悪相殺の取得は不可能です。

理由を説明しましょう。まず、ヒーロー陣営では基本的に殺人が行えません。1人までなら相手がヴィランであればその場の勢いと偶発的な事故を仕組むことによつて殺す事も出来なくはありませんが、それをした瞬間ヒーローとしてのアイデンティティと

かいうプレイヤーからしたら訳の分からないものにより心が折れます。具体的には早くても数日、遅ければ数年単位での操作不能です。勿論そんな状態でオールマイトを殺すなんて事が出来るはずもなく……要は詰みます。

じゃあ最初から人殺しまくる凶悪ヴィランならええやんけ！ これで阪神優勝間違いないしや！ と思うかもしれないですが実はこれもダメです。ヴィランとして敵連合に入った時点で敵連合への攻撃が出来なくなります。オールマイトは問題なく殺す事が出来ませんがオールフオーワンの方が無理になるわけですね。

ならどうすりゃいいんだよとお思いの全国の8101919人のホモ達、落ち着いてください。要は殺人への拒否感をなくしつつ敵連合に所属しない……つまり、敵連合以外のヴィランになれば良いのです。

と言われても、え？ それじゃ神野の戦いに着いていけないじゃんアゼルバイジャンと疑いの目を私に向けていることでしょう。よろしい、ならば私のプレイを見せて……あげる前に、キャラメイクを見せてあげましょう。

名前は当然の如くホモ……ではなく、空白にします。別に空白 白という名前とか未入力力でGOとかそういう訳ではなく、あえて全部スペースを入力して名前を決定します。すると確定で名前……つまりまともな身分を持つていないような最底辺の生まれとなります。持たざる者。生まれるべきでなかった。

性別は……どっちでもいいので女にしましょうか。やる気が上がるとタイムも縮むらしいので。私はノンケです。

さてそして開始年代及び年齢ですが、当然緑谷世代を……選びません。別に雄英に入学するわけでも無ければ敵連合に入る訳でもないのです。

かといってオールマイト世代も選びません。三つ巴ルートがやりたいならこのルートが（勝てるかは別として）楽ですが、今回は神野の戦いを狙うので。

今回選ぶのは雄英教師世代です。あのイレイザーヘッドの後輩になったりマイクとひたすらバンドをやったり一部の層から絶大な人気を誇っているとどこです。この世代を選び、原作開始時点までスキップを押すことによりある程度のステータスを持った状態で原作に関わっていくことが出来ます。細かいことはプレイ中に説明していきます。

世代まで決定したところでゲームスタート。タイマーもスタート。

はい、よいすたーと。

はい開始と同時にガチャ。みんな大好き個性がチャ……ではなく親ガチャです。当然戸籍も無いような最底辺の生まれなので母親は売女、父親は誰かも分からないというのが理想……ではありません。理想は普通の家庭です。そう、今回のようなね（810敗）

ちよつと待つて！ 普通の家庭なら名前がつかないわけないやん！ と思うでしょう？ 説明しましょう。

この世界では個性に応じた名前をつけてあげるといふのが一般化されています。それが意味するのはつまり……そう、個性が発現する最高年齢の4歳までは出生届を出さなくていい……とまではいきませんが、名前の欄については空白にする事が許されています。

さて、幼稚園にも行っていないような子供の日常を垂れ流していても仕方ないので1919倍速をかけていますが……普通に良い家庭ですね。現実だったら親ガチャSRは名乗ってもいいでしょう。

早く原作開始までスキップしろよ！ 俺は待ちきれないんだ!! という早漏のホモもいるかもしれませんがもう少々お待ちください。あるイベントが起きるまでスキップはしません。理由は気が向いたら説明します。

なんて言っている間に個性が発現しましたね。今回の個性は……「頑強」だそうです。面倒なので分かりやすく言うとSTRとVITにボーナスが入ります。ワンフォーオールに火力では劣りますが防御力では上回ります。極めればの話ですが。

正直もつと強い個性はいくらでもありますが、あまりにも強い個性を持つと個性マニアのおっさんに狙われて詰むのでこのくらいで丁度いいです。

さて個性が発現したことで、名前を入力しなかったことによる確定イベントが……起きました。倍速編集のせいで何が起きたか分からなかった人のために説明すると、ヴィランによる家族の惨殺イベントです。これにより名付ける人がいなくなるためプレイヤーカーラに名前がつかないわけですね。

こうして晴れて天涯孤独の身となったら暫く路上生活を行いましょう。この際なるべくヒーローが近づかないような薄汚いところを根城にするのがポイントです。ヒーローに見つかるかと保護されてしまう可能性が高いので。

ゴミを漁ったり親切なホームレスのおじさんに助けて貰ったりをしながらひたすらとあるイベントが起きるのを待ちます。この際に個性やプレイヤースキルによっては目立たない裏路地などでチンピラを狩る事で生活を楽にすることが出来ますが今回のプレイでは行いません。

はい、いつもの根城に戻ると黒スーツの謎のおじさんが訪ねて来ていますね。これで狙っていたイベントが開始となります。

このイベントが起きる条件は、天涯孤独の身である。ヴィランとみなされるような行為を行っていない。一定以上のステータスがあるの3点です。1つ目は問題なくクリア。2つ目は今回は封印していたため問題なし。3つ目は廃材収集などで筋力値が上がつているのと個性ボーナス分でOKです。

このイベントを一言で説明すると原作でホークスが支援を貰ってヒーローになったというのと似たようなものです。似たような、というところがポイントです。

とりあえずイベントを進めると、全面的な生活支援の代わりに危険な任務につくヒーローになってもらうという条件が出されます。これを受けるとホークスと同じルートに進めます。なんならホークスと仲良くなったりも出来るかもしれません。

しかし今回はこれを蹴る……というかこちらから条件を付けます。ヒーローなんて嫌だ！ 私は家族の仇のヴィランを殺したいんだ!!

はい、この発言により保護されたあとの未来が変わります。危険な任務に駆り出されるヒーローではなく、危険過ぎるヴィランを殺処分する、国家の首輪のついたヴィランとなります。これが先述した敵連合以外のヴィランになる、ということですね。

このルートを選ぶメリットとしてはヒーローでは無いので殺人が行える。これが一番でかいです。ついでに政府からの教育を受けられるので知力を含め全てのステータスが伸びやすくなった状態でトレーニングが出来ます。

ではイベントも終了したところで原作開始までスキップを押しましょう。これにより現時点から原作開始までの期間に応じたボーマナスポイントが貰えます。今回は政府直属の立場になったので相当稼げるはず……ですが、じっくりプレイするには敵いません。努力値をしっかりと割り振ったポ○モンとふしぎなアメだけで育てたポケ○ンぐ

らい差が付きます………なんだこのステータス（驚愕）

思ってた10倍ぐらい育ってたのでびっくりしました。スキップの間に何があったというのだ……まあステータスが高い分にはいいので問題は無いでしょう。

さて国家の犬プレイで原作開始時点になると雄英へ教師……ではなく教師の護衛として派遣されることになります。具体的にはオールマイトの護衛ですね。

オールマイトにそんな必要か？　と思えますがまあ原作と関われるようにという補正でしようから有難く受けます。

雄英に赴任したところで今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

おまけ 1

暗い裏路地を、男が1人走っていた。一見なんの特徴も無いよう思える彼を一言で説明するならば、半グレ、だろうか。

子供の頃は周りと同じようにヒーローに憧れて、しかしそのための努力はせず、そのままずるずると時間だけを浪費し、中学高校と底辺を過ごし、親のスネをかじり大学へと行かせてもらう。そこで出会った……いわゆる、少しワルな先輩から話もちかけられ、その道に堕ちていく……そんなどこにでも居るようなヴィラン紛いの半グレの1人だ。

幸運にも……いや、不幸にも。彼の個性はそれなりに悪事に役立つってしまった。仕送りが足りないと言つて、しかし真面目にバイトをしようとしてもしなかつた彼にとつては、先輩とちよつと悪い事をして大金を稼ぐというのは最高に頭のいい生き方だった。

「ハッ……ハッ……くそ！　なんでこんな……！」

彼の個性は「複製」。あらゆる物をコピーできる。しかし強い衝撃を受けたりある程度の時間が経つと増やした物は消滅してしまう。最初は貴金属などを増やし、それを

売って小遣いを稼いでいた。だが何事も、回数を重ねていけば過激になっていくものだ。より高く売れる物を探して。次第に売れるものは脱法ドラッグになり、麻薬になり、銃になった。

悪事を重ねる毎に子供じみた万能感を感じ始めて。周りにいる誰もが自分達に搾取されるための馬鹿に思えた。——端的に言って、調子に乗っていた。

だが、そんな絶頂期も長くは続かず。ヤクザを相手にしたのが運の尽きだった。

面子を潰されたと怒り狂うヤクザを相手にして、ようやく自分達の愚かさを悟った。

先輩は目の前で殺された。最期に個性で逃がしてもらっていなかったらすぐにでも後を追うことになっていただろう。尤も、大して結果は変わらなかったが。

曲がった先は、袋小路だった。どんどん近づいてくる足音に自分の運命を悟る。

嫌だ。死にたくない。死にたくない死にたくない死にたくない。

気がつけば、とうとう追いついてきた男達に向かって命乞いの言葉を並べていた。自分でも何を言っているのか分からないくらいに必死で。

返ってきたのは冷たい撃鉄の音。ああ。終わった——思わず目を閉じて、しかし予想した衝撃も痛みも、いつまで経ってもやってこなかった。

恐る恐る目を開けて、視界に入ってきたのは意味の分からない光景だった。ついさつきまで自分の生殺与奪を握っていた奴等は全員血の中に倒れ伏して……全身を覆

うコスチュームを付けた、男か女かも分からないやつが代わりに立っていた。

多分——多分だが、あんなコスチュームを付けて、ヤクザ共を倒してくれたということはヒーローだ。これで助かった——なんて、自分の今までしてきた悪事は棚に上げて、そんな事を彼は考えていた。あるひとつの事実を見落としたまま。

「あ……ありがとう。あんた、命の恩人だ」

その暫定ヒーローはこちらの言葉に特に反応も見せることなく、追ってきていたヤクザが持つていた拳銃を弄っていた。

「なあ、あんた。銃が欲しいのか？ それなら……」

俺の個性で——それ以上の言葉は続けられなかった。弄っていた拳銃を握らされたからだ。

「撃て。私を殺せたら見逃してやる」

「……は？」

何を言っているのか。何を言われているのか、分からなかった。

「違法薬物の取引、武器の売買。貴様のせいだけで被害者が出たと思っている？

……いや、答える必要は無い。どうせすぐに死ぬのだから」

「は……はあ!? 何を……いや、俺のせいじゃない! わ、悪いのはヤクザ達だ! 俺はただアイツらに渡しただけで……殺すなら、アイツらにしるよ!」

「……安心しろ。奴等はすでに処刑した」

「しょ……！ なんなんだよ！ あんた、ヒーローだろ!? ヒーローが人殺しなんて……」

ヒーローは人を殺さない。それはこの社会における大前提の1つで、しかし目の前のヤクザ達の末路が否定している事実でもある。

「勘違いするな。私はヒーローでは無い。私は正義そのものだ」

続く意味の分からない言葉。イカれている。そうとしか思えなかつた。

「せ……正義？ 馬鹿かよ！ ……人殺しの、何が正義だよ！」

「……その通りだ。私もまた、貴様らと同じ穢らわしいヴィランの1人だ。……全ての

ヴィランを殲滅した後、私は私自身を処刑する。そうする事で、私の理想は完成する」

「……この！ イカレ野郎がアア！」

首の骨が折れる音は、銃声にかき消された。

世界総人口の八割が「個性」という何らかの特異体質である現在、それを悪用するヴィランと、それをよしとしないヒーローが現れた。2つは争い続け、その戦いは100年以上続いている。

ヒーローには犯してはならない大前提が1つある。ヒーローは人を殺してはならない。

無秩序な個性による暴力を行っては、ヒーローはヴィランとは何も変わらなくなる。そんなものは民衆が憧れるのに相応しくない。

当然のものとして受け入れられていたそのルールに、しかし納得出来ない者がいた。

ヒーローが捕らえたヴィランが、再び罪を犯す姿を見た。物を、人を盾にされ、見逃さざるを得なかったヴィランを見た。

ヒーローは善なる者である。故に縛る枷が無数にある。犯せぬ非道が山ほどある。善では悪を打倒できぬ。故に巨悪を喰らう悪となれ。

私は、そんな願いから産まれた。国家に飼い慣らされた暴力装置。ヴィランを狩るヴィラン。ヒーローとは、明確に異なる存在。

「……はい。指定敵団体は殲滅しました。……はい。民間人……？ ……ああ、私が到着した時は既に……いいえ。不慮の事故です」

いつも通りヴィランを殺して報告をする。不慮の事故もいつもの事だ。向こうも薄々は気付いているのだろうが、それを責められたことは無い。少なくとも、目的が一致している限りはこの関係のまま続いていくだろう。

今回は楽な仕事だった。違法薬物、闇金、暴力。そんな違法行為の数々を行いつつも証拠を掴ませなかった為に警察も手を出せないでいたヤクザ共。元より生きる価値なご微塵もない蛆虫共は、何処かで国の引いた見えない線を踏み越えてしまっていたらしい。

マトモな抵抗が出来るほどの組織なら、とつくにヴィランとして暴れている。それが出来る力もない群れただけの蛆虫を殺すのは、そう手間取ることもなかった。

だがそれは、重要度の低さを意味する訳では無い。楽な相手も手強い相手も悪は悪だ。全て殺さねばならない。

「……はい。それでは……？」 護衛、ですか？」

通話の終了間際に、追加された言葉をオウム返ししてしまう。私の本分は蛆虫共の排除であつて、守勢は苦手なのだ。

続けられた言葉は、さらに耳を疑うものであつた。

私に、よりによつて人殺しのこの私に。雄英の教師をやれと宣つたのだ。

正確に言えば新任教師の補助らしいが尚更意味が分からない。その困惑は補助対象を聞いて更に大きくなつた。

あのオールマイトだそうだ。ナンバーワンの最強無敵のヒーロー。護衛対象の方が護衛より強いなんてただの笑い話だろう。

詳しい話は雄英で聞けと突き放されて、しかし最後に私の前に餌をぶら下げる事も忘れなかつた。

護衛中、殺害対象の判断は全て一任する。

それは私がずっと待ち望んでいた一言だつた。これで目の前のヴィランを見逃す——いや、どの道後で隠れて処刑していたが、ともかくその手間も無くなる訳だ。

そう考えればオールマイトの護衛というのでもいいものかもしれない。ナンバーワンヒーローとは、それだけ敵が多い事も意味しているのだから。

いや、今何を考えても皮算用か。全ては、雄英に赴任してから考えることだ。

こうして、私は新しく、陽向の世界に踏み込んでいくことになった。

これは、ヒーローの物語ではない。

本編（2／n）

原作の流れに身を委ねるRTA、はーじまーるよー。

では雄英に赴任したところから。雄英といえど皆さん想像するのは入試テストでしようか。どう考えても戦闘力がある個性しか合格出来なさそうなあのテストですが、ヒーローポイントの獲得だけに絞ると案外楽に合格出来ます。他にも色々コツはあります、それは他のチャートをやる時にでもお話ししましょう。

今回のプレイでは学生として入学する訳では無いので当然入試イベントはありません。

時系列をなぞると次にあるイベントは入学式をガン無視した個性把握テストですが、今回のプレイではそこにも関わらないのでカットです。イレイザーヘッドの出番はもう少し待ってね！

さて、いい加減イベント起こせよとホモ達がお怒りでしようが御安心ください。ヒーロー基礎学の授業からプレイヤーキャラも参加となります。……とは言っても、あくまで教師側なので個性豊かなA組の皆と戦ったりはしません。教師として講評を行うのが主な仕事となります。

そしてそれもオールマイトとA組の生徒に任せておけば問題なく進んでいきます。マトモに発言するのは全員分終わった後の最後の講評だけで充分です。ここでMVPに選んだ生徒の好感度が上がるのでお気に入りへの生徒を選ぶと良いでしょう。RTA的には誰でもいいです。今後出番のある爆豪救出組辺りから選んでおくのが丸いでしょう。

さて講評も終わったのでイベント終わ……なんで等速に戻す必要があるんですか？

はい。ということではヒーロー基礎学のイベント、対オールマイトの模擬戦です。

プレイヤーキャラの個性が戦闘系、あるいはステータスが一定値を超えている時にのみ起きるイベントです。ちなみに今回はどちらの条件も満たしています。

早速クジを引いていきましよう。今回は……ヴィラン側ですね。まあ今回のプレイング的にはピツタリな役でしょう。ちなみにどちら側になってもそこまでタイムには関係ありません。ややヒーロー側の方が探索をしなければならぬ分口スですが誤差の範囲です。

それでは早速やっていきましよう。

ヴィラン側の戦法を簡単に説明すると一撃離脱です。まずは入り口から入ってきたところを床をぶち抜きながら奇襲。オールマイトと正面戦闘を行って勝てる訳もない

ので離脱。後は物音をたてたり無駄に壁や床を破壊して遅延行為をします。ダメージを与えられなくても数分稼げれば充分です。

するとオールマイトの活動限界が迫ってくるため一気にケリをつけようとしてきます。卑怯？ 汚い？ RTAにそんな事かんけないから。具体的なオールマイトの行動としては核の確保（激ウマガグ）あるいは大技による一撃必殺の2択です。

こちらのステータスが低い、あるいは体力を削られていると大技、核の位置が大まかにでも割り出されていると確保に動く傾向があります。

今回はちよつとビルを壊しすぎてしまったので（減点要素）確保に動いてきましたね。この場合はさっさと核の所へ行きましょう。すると狭い部屋の中でオールマイトとの一騎打ちに持ち込めるのでここでやり合い……ません。勝ち目がないので。

ここでの正解はさっさと核を起動させる事です。これにより判定を引き分けにする事が出来る上に戦闘を終了させられます。経験値もタイムも、うん！ 美味しい！

さて、オールマイトとの模擬戦が終わると彼はデクくんの様子を見てくるという建前兼本音ですぐさまこの場を去ります。そのため戦闘後の講評……というか生徒からの質問には1人で対応する事になります。丁寧にかつ言葉少なに答えていきましよう。よつほど不味い答え方でもしなければ問題ありません。

ヒーロー基礎学が終わったら次のイベントはヒーロー基礎学です。イザナミだ。

みんな大好きUSJでの救助訓練(笑)ですね。ここでは2つのパターンから行動を選べます。1つはオールマイトの護衛として完全に行動を共にするパターン。こちらのパターンではいくつかの人助けイベントをこなし、校長の無駄話を聞いてからオールマイトと共にUSJに乗り込むことになります。

メリットとしてはオールマイト到着までのヴィランとの戦闘をカット出来ることです。さらにオールマイトが到着すれば脳無とのムービー戦闘でイベントを終えられるのでタイム的には安定した早さを得られます。

デメリットとしてはヴィランとの戦闘がほぼ無くなってしまいうので経験値が得られない事です。今後もヴィランと戦うことを考えるとステータスはいくらあってもいいぐらいなのでこれは結構痛いです。

もう1つのパターンはUSJに前乗り……というかA組に同行するパターンです。これのメリットデメリットはさっきの逆と考えてもらっていいです。メリットは大量のヴィラン、脳無、死柄木、黒霧との戦闘による経験値の獲得。デメリットはその分かる時間です。

今回取るのは後者です。経験値が貰えるのは美味しいですし、戦闘はプレイング次第でタイムを短縮出来ますので。

ちなみに行動の決定は簡単です。ただ時間通りに学校に出勤すればいいだけなので。

オールマイトに同行したい場合は彼に連絡をとって合流すればいいです。

はい、ということでUSJでの訓練まで倍速……といきたいところですが、やる事があります。

まずはマスコミによる雄英への不法侵入イベントを起こします。そして飯田くんの活躍によりその場が収まったら校門を見に行きましょう。これによりフラグ：ヴィランの仕業？ が手に入ります。こんなもんなんの役に立つんじゃない！ と思うかもしれませんが、ので説明すると、武装の申請の理由になります。

いつもの全身を覆える特性スーツはコスチュームという事で問題なく持つていけますが、生徒の学習の場に兵器を持ち込むのは教育上良くないとして理由が無いと却下されてしまいます。素手での戦闘は一对多でやるには効率が悪すぎるのでそのため理由付けとして利用します。持ち込む武器については後ほど説明します。

豆知識として八百万さんに頼むと大体の兵器はその場で作って貰えます。万が一武器を忘れたり、武器を破壊してくるような個性持ちのヴィランが紛れていた場合は利用させてもらうといいでしょう。

解説したら丁度よくUSJヴィラン襲撃が始まりましたね。はいここで持つてきた武器、対物ライフルのお披露目です。

ワープゲートを通ってきたヴィラン（チンピラ）を順番に撃ち抜いていきましょう。

死柄木の発言以前に行うことで相手に恐慌のデバフを付けられます。1部の異形型を除き確定1発で殺せるので異形型以外を狙うといいでしょう。ちなみに死柄木や黒霧を狙うとワープゲートで銃弾を返されます。プレイヤーキャラに返してくるなら回避も出来なくはないですが生徒の所に返されたらどうしようも無くなるのでその2人は狙わないのが安定です。

ちなみに脳無には全くのノーダメージなので狙うだけ無駄です。あくまで雑魚の間引きに専念しましょう。

これをする则ち他の人間の行動パターンも確定させることができます。まずイレイザーヘッドがあまりにも生徒の目には毒な光景をどうにかするためヴィラン達を捕縛して終わらせようとしています。

そしてそれにイレイラーが限界になった死柄木が脳無と共にイレイザーヘッドへと向かっていきます。

最後に黒霧が生徒を散らすため兼13号先生を行動不能にするためそちらへ向かいます。

黒霧が離れたなら死柄木を討つチャンスでは？と思うかもしれませんが、脳無が銃弾の盾となりノーダメージに抑えてくるので打つだけ弾の無駄です。

さてこの場合の最適な行動はなんでしょうか？ ……引つ張つてもしょうがないの

でお見せすると、全てをガン無視してひたすら撃てる範囲にいるヴィラン共を塵にしていくことです。レイザーヘッドが脳無に潰されようと13号先生が自分にブラックホールして戦闘不能になっても無視です。

これによるメリットはヴィランの経験値の獲得、散らされた後のA組の生存率の上昇といったところです。デメリットとしては運が悪いとレイザーヘッド、13号先生が死ぬ事です。ちなみに13号先生が殺される、は許容範囲ですがそのせいでヒーローを呼びに行けなくなる、はリセです。死柄木の撤退条件を満たせなくなり原作が崩壊するためですね。

さて、このままだと本当にレイザーヘッドが殺されるので助けに行きます。今の主人公なら脳無と数発は打ち合えます。回復力の関係で殴り勝てはしませんが。

あ……：そういうえばデクくんが助けに行くんでしたね。これなら助けに行くまでも無かったかな……：そうそうここでピンチになってオールマイトが……あ！ やっべ！！

急いで脳無を蹴り飛ばして死柄木にぶち当てます。プレイヤーキャラが戦力として増える分オールマイトの到着が遅れるという調整がされている事を忘れていました。

という事で対脳無戦です。ショック吸収の為打撃技は一切無効というチートっぷりです。オールマイトがくるまでは余裕をかまして死柄木が戦闘に加わってこないのだけが救いです。

という事でやるべきは打撃以外での時間稼ぎです。具体的には目を抉り続けます。機械的にこれだけをこなしていればオールマイトが来てくれるので……来ましたね。これで勝ち確です。

後は死柄木に睨みを聞かせて動けなくしていればオールマイトが確定で脳無を吹き飛ばしてくれます。

死柄木の最後のあがきも難なく防げるので問題ありません。そうこうしていれば英雄教師達が到着して死柄木と黒霧が撤退していくのでイベントは終了です。

キリがいいので今回はここまで。ご視聴ありがとうございました。

おまけ 2—1

「わーたーしーが……普通にドアから来たア！」

「初めてのヒーロー基礎学の授業、コスチュームに身を包んだオールマイトが姿を現し、A組は激しい盛り上がりを見せる……はずだった。それを阻んだのは、異様な風体の一人の人間。」

体のラインすら分からない全身を覆うコスチューム。顔を完全に覆うフルフェイスのヘルメット。そんな物を身にまとった人間が現れて、気圧されない子供の方が少ないだろう。

「オールマイト先生、その人は……？」

「おっと、君達の興味はそっちか！ そうだな！ せっかくだから自己紹介でもしてみらおうか！」

オールマイトに促され異装の人間が1歩前に進みでる。

「……初めまして。公安からオールマイトのサポートの為に派遣されてきました」

その一言を言ったとき、沈黙が続く。

「……？ 以上です」

コミックスだったら、ずっとこける演出がされていただろう。そんな気の抜けたような自己紹介に生徒達はすっかりと毒気を抜かれた。圧迫感から解放されたと言い換えてもいい。それが表すものとは即ち。

「謎の人キター!!」

「せめて名前を教えてくださいだけないでしょうか!」

「男か!?! 女か!?!」

「公安って……なんでそんな所から?」

子供の好奇心故の質問責めである。しかしそれを受けて思ったのは、なんでこの人達は騒いでいるのだろうかというくらいだった。質問に答えようという積極性も、質問を断る消極性も見せようとしれない。なぜならどうでもいい事だから。

「すまない! 少々物足りない自己紹介だったとは思いますが時間が無いからね! コスチュームに着替えてグラウンドβに集まってくれ!」

オールマイトの鶴の一声が無ければそのまま気まずい時間が流れていたかもしれない。ガヤガヤと盛り上がりながら教室を出ていく生徒達を横目に見つつ、

「そういえば、公安所属だって明かしても良かったのかい? てっきり無名のヒーローって事にするもんだと思っていたのだが」

「……ああ、良くありませんね。……今からでもどうにか……」

「ならないだろうね……！　まったく、君のキャラがよく分からなくなってきたよ」
そんな気の抜けるような会話をしていた。

ヒーロー基礎学の内容は戦闘訓練だ。ヒーロー側とヴィラン側に別れ、くじ引きで決めた2人組で対戦相手の無力化、及びヒーロー側は核兵器——勿論そういう設定というだけだが——の確保を目指す。そういう訓練だ。

エリート揃いの雄英の生徒達という事で、訓練もお行儀の良いものになるだろうという予想は、1組目の戦闘の時点で裏切られた。

周りの被害を考慮しない攻め方をする爆豪と、自分の負傷を考慮しない勝ち方をした緑谷。

正直、訓練の想定に見合った行動だったとはお世辞にも言えないだろう。事実、訓練後の講評でMVPに選ばれたのは飯田だった。

ただ、今の時点でそこまで求めるのは酷というものだろう。まだ学んだ事などほとんど無く、精々が入学当日の個性把握テストぐらい。それで自分の役割を考えて行動出来るのは、幼少期からそのための訓練を受けた例外くらいだろう。それに、彼らはここに

ら成長していくのだから。

1組目以降は、言い方は悪いがお行儀良く進んでいった。特に負傷者が出なかったという意味だ。それなりに危険な個性を持っている者もいて問題無く進んだのは初日の個性把握テストで自分の個性について多少なりとも知れていたからだろうか。

そして訓練内容についてはオールマイトが丁寧に解説を加えていた。それにしても、ナンバーワンヒーロー直々の教育のなんと贅沢な事か。

ヒーローは序列が高ければ高い程現場に出ていると言っている。その中でナンバーワンヒーローといえ、その忙しさたるや想像も及ばない程だ。

「お疲れさん！　緑谷少年以外は大きな怪我もなし！　しかし、真剣に取り組んだ!! 初めての訓練にしちや皆、上出来だったぜ！」

そんな言葉でオールマイトが授業を締める――

「訓練はこれで終わりだが、最後に君からも少し講評をしてもらおうかな！　前に、話を広げてきた。」

「講評と言っても、それは各自の時にもやったからね！　そうだな……君の考える今回の訓練でのMVPを教えてください！」

「……そうですね。まだ皆荒削りではありましたが……強いて言うなら轟君ですかね。自分の個性でどこまで出来るのか、しっかりと把握していた攻め方でした。ただ……」

褒められた時、一瞬だけ緩んだ空気が、直ぐに引き締まる。

「やるならば徹底的に。全身を凍らせろとまでは言いませんが、せめて腕……尾白君なら尻尾もですね。反撃の芽は完全に失くすべきです」

そこまでやる必要性は無い。体力の無駄だ。あくまでこれは訓練だ。いくらでも反論は出来ただろう。それをさせなかつたのは言葉に込められた実戦経験の重み故か。

暫し訪れた静寂を、オールマイトの手拍子が打ち破った。

「うん！　まとめとしてはそんなところかな。簡単に言うと、今に満足して歩みを止めないように！　Plus Ultra！　だね」

はい！　と小気味良い返事が返ってきて、場が綺麗に纏まった。……と思ったのだが。

「……とここで、思っていたよりも皆が優秀だったから授業の時間が余ってしまった。この際だから何か聞いておきたい事とかあるかい？」

その言葉に、ガヤガヤと盛り上がりを見せる。何を聞いたらいいか決められない者、武勇伝を本人の口から聞きたい者、様々な声が混ざる中。1人の生徒の生徒の発言に、皆が同意した。それは、プロヒーローである先生達なら、この訓練をどのように行うかが見たいというもの。

オールマイトがそれを快諾した事により、急遽1戦追加されることとなった。

急遽行うこととなった教師同士の戦闘訓練。ルールは生徒が行っていたものと同様。違いとしては誰とも組まない1体1の戦闘だという事くらいか。

オールマイトはヒーロー側。生徒達の大半はオールマイトの勝利を信じているようだ。まあ私としてもオールマイトに勝つ自信があるとは到底言えないが。

勝ち目のない相手なら、マトモに戦わなければいけないだけだ。生徒に見せる、という意味ではあまり相応しいとは言えないかもしれないが、その辺はオールマイトに任せるとしよう。

戦力で劣る側が取れる選択肢は限られる。ならばするべきは先手を取る事。開始の合図と同時に床を殴り抜けて入り口のオールマイトを奇襲する。

「おっと……い！ いきなりかい！」

「正面からじゃ勝てそうにないので」

一撃を加えてさっさと離脱する。オールマイトに弱点があるとしたら怪我による持久力の無さぐらいだろう。あの姿でいるだけで相当な消耗がある、初めてそれを聞いた時は驚いたものだが知ってしまったからには利用するしかない。

卑怯も汚いも敗者の戯言だ。何があろうと勝てばいい。正義とはそういうものだ。

……なんて威勢のいい事を言えるのは思考の上だけ。現実問題、ギリギリと追い詰められているのは私の方だ。一撃もらったら終わりの相手に対して正面から戦う訳にも行かず、一撃離脱を常に行っていたツケとして、ビルはほとんどと攻略されていく。

核が置いてある部屋の中でオールマイトと正面から向き合うまで、大した時間は稼げなかった。

「さて、やつと捕えられるよ。始めようか」

「……ええ、そうですね。やりましょう」

一言交わした後、すぐさま戦闘態勢に入る。2、3発ならギリギリ殴り合えるだろうか。耐えるだけならもう少しいけるか？ だがまあ……

「なんて、嘘ですよ」

全力で後ろに飛んで核を起動させる。ぽんつとコミカルな音を立てて訓練終了の合図がなる。

両者共に死亡判定。……生徒からはまあ、ブーイングが来た。

「それじゃあ私は緑谷少年の様子を見てくるから、あとは頼んだよ！」

そんな言葉を残してオールマイトが去っていつてしまったものだから、子供達を一人で相手にする事になってしまった。こういうのは向いていないと自覚してるから、とても嫌なのだけだ。

「さて、じゃあ解散……は納得しなさそうですね……。何か質問でもあれば受けましようか。あまり時間もないので1人だけ」

「はい！ 何故訓練の最後、戦わずに自爆を選んだのでしょうか！ 理由を教えてください！ だきたいです！」

「ああ、簡単な事です。勝てない相手に、出来るだけ嫌がらせをして、殺す。ウイルスの常套手段です。タダで負けるぐらいなら道連れにしても。そういうウイルスは意外と少なくありません」

その言葉を聞いて生徒達の間には納得したような空気が流れた。とりあえず、何も考えずに自爆したと思われなくて何よりだ。

「では、先程の訓練は引き分け、判定で先生有利。と言った所でしようか？」

「……さっきの結果だけ見ればそうとも言えなくは無いですね。ただ、オールマイトが殺す気なら私が核に触れる前に殺せていたでしょう。そういう視点から見れば、1対1で部屋に追い詰められたところで私の負けですね」

「なるほど……」回答、ありがとうございました！

「いえ……では、帰りましようか」

だが1人のまた別の生徒が声を上げた。

「あの、先生って……もしかして、人を殺した事——」

「……質問は一人までです。さあ次の授業に遅れますよ」

そういつて誤魔化した。……誤魔化しただろうか？ とにかく引率して生徒を更衣室まで送ろうと――

「あ」

した所で、バキリと付けていたヘルメットが砕けた。オールマイトとの小競り合いにも耐えられないとは、耐久性を見直す必要があるだろうか。

とりあえずそんな物をそれ以上付けている訳にもいかずヘルメットを外す。

「顔お披露目キターー！」

「美人だー！」

「やっぱり女だったな」

一瞬盛り上がりかけたが、冷めるのも一瞬だった。

「? どうかし……ああ、すいません。子供には刺激が強すぎましたか」

ヘルメットの下にあったのは、元は美人だったのだろう思わせる顔。少なくとも、横半分だけ見れば美人だった。

だが顔の残り半分は焼け爛れた醜いものだった。

「……私の顔については内密に。特徴的なので、すぐ目立ってしまいますから」

テレビで見えていたヒーロー達の明るい部分とはかけ離れたものを見せられて、皆少な

からず衝撃を受けた。

これを遥かに上回る光景を見せつけられることになる未来も知らずに。

おまけ 2—2

「13号！ 生徒を守れ！」

「なんだありや、もう始まってんぞパターン？」

「動くな！ ……あれは、ヴィランだ！」

ゾロゾロと現れるどう見ても堅気とは思えない集団。雄英を襲ったとなれば箔が付くと考えた者、子供に下卑た欲望を向ける者、ただエリートが気に食わない者、そして、平和の象徴を壊したい者。共通しているのは、他人を傷付けることに罪悪感など抱かない連中である事。

生徒達は雰囲気にも飲まれる事しか出来なかった。イレイザーヘッドは生徒達を守る事を第一に考えた。13号は冷静にどう動くべきかを考えた。そしてもう1人は――

「イレイザーヘッド、13号。生徒達に、こちらを見ないようにと」

一切の躊躇なく、ただ殺す事だけを考えてた。

雄英1年生の授業中。同行するヒーローも極わずか。圧倒的な人数で襲つて後は好きにすればいい。協力するなら金も渡す。

個性を思いっきり使いたいと、或いは生まれ持った個性で差別されてきた鬱憤を晴らしたいと。欲を満たせて鬱憤も晴らせる。最高の仕事だと多くの人間が乗つてきた。

彼らは、自分に都合の悪い事態など想定出来ない。この人数でかかればプロヒーローにも勝てると思つていたし、1年生如きが自分達に叶うはずがないと思つていた。強いて彼らの心配事を挙げるとしたら、人数に対しておもちやの数が少ないということくらい。

そんな中1人が、下衆な欲望を胸にゲートを潜り。獲物を見つけさあ行くぞと——弾丸に、首から上を吹き飛ばされた。

轟音に。或いは降り掛かつてきた血飛沫に。呆気にとられて足を止めた者から似た末路を辿る。ある者は四肢を撃ち抜かれ千切れる手足を見る事となった。ある者は上半身と下半身が永遠に分かれた。

恐慌してゲートに戻ろうとした者と、ゲートから出てくる者がぶつかつて、2人纏めて撃ち抜かれた。

血飛沫。断末魔。銃声。

圧倒的多数の攻撃側だったはず、否、事実まだこちらの方が数倍は数で上回っている。

なのに、息を潜めて遮蔽物に隠れることしか出来なかった。

新しくゲートを潜つて来た奴等も、運が悪かった奴から撃ち抜かれていく。そして運が良かった奴は鼠のように隠れる者の仲間入りだ。

「おいおい、なんだよコレ……いきなりこんなにやられるとかどんなクソゲーだよ……」
最後にゲートから現れたのは、身体中に手をつけた不気味な男と脳をむき出しにした不気味な男。

「しかも、オールマイティいねーし……何処だよ……子供を殺せば来るのかな? ——黒霧。生徒を散らせ。遠距離に対応出来るやつは、銃のヒーローを殺せ」

襲つてきたヴィランの集団のリーダーと思しき男が指示を出す。

それと同じタイミングで、イレイザーヘッドがヴィランの集団に飛び込んでいく。援護射撃も飛んでくる中、元々得意としていた対多での捕縛術は確実にヴィランの数を減らしていった。

「ヒーローがさあ、人殺していいのかい? そんなの正義じゃなくて、ただの暴力じゃないか」

「それを止めるために態々前に出てきたんだよ」

「へええ……カッコイイねえ。イレイザーヘッド。——脳無。アイツを潰すぞ」

一方、待機している生徒達と13号。

「——我々はヴィラン連合。僭越ながら、この度雄英高校に入らせて頂きましたのは、平和の象徴、オールマイイトに息絶えて頂きたいと思つてのことです」

こちらにやって来たのはゲートの役割を果たしていた黒い霧のようなヴィラン。

当然13号が生徒を守る為に行動——する前に、2人の生徒がヴィランへと向かつていった。

「その前に俺らにやられるつてことは考えなかつたのか!？」

「爆破」と「硬化」。汎用性の高い強個性であり、並のヴィランならこの2人に倒されていただろう。だが。

「危ない危ない。そう、生徒と言つても優秀な金の卵」

相性が悪かつたというもある。実体を持たない霧の体に、物理での接触は酷く通りにくい。

「私の役目は貴方達を散らして斃り殺す……まあ、少し予定は狂ってしまいましたが」

その言葉と共に霧が広がり、生徒の半数程が霧に飲まれる。本来なら飛ばした先で集めてきたヴィラン達が一網打尽にする予定だったが、銃のヒーローに手駒がかなり減らされている。余裕ぶつた物言いと裏腹に、内心はかなり苛立っていた。

「委員長、君に託します。学校まで走つて、この事を伝えてください」

「しかし……！ クラスの皆を置いていくなど……！」

「敵前で策を語る阿呆がいますか！」

「バレても問題が無いから語ったんでしょうが！」

再び広がる黒い霧と、それを個性で吸い込む13号。実体のないものをも吸い込み、塵にする13号の個性はこの戦いにおいて好相性かと思えた。しかし。

「なるほど……驚異的な個性です。しかし……戦闘経験は一般ヒーローに比べて半歩劣る！」

ワープゲートを13号の背後に開く。それは即ち、全てを吸い込むブラックホールが自身の背中で開くということ。

自分で自分を吸い込み、倒れ伏す13号。

「先生！」

「行け！ 飯田！ 走れって！」

「……教師達と呼ばれては、こちらも大変ですの……！」

生徒は粗方散らす事が出来た。プロヒーローである13号は行動不能に出来た。汚

点は生徒を1人逃がしてしまった事か。子供といえど金の卵。油断したつもりは無かったが、失態だ。

その失態を埋め合わせる為にも、せめて詳細の分からない銃のヒーローを仕留めようと矛先を向ける。遠距離を得意とするヒーローとは何度か戦ったことがある。ワープゲートを活用すれば、遠距離戦は得意分野だ。

向こうもこちらに気づいたのか、銃のヒーローの顔がこちらを向き——心臓に鉛弾を叩き込まれた。

否、錯覚だ。実際には何の攻撃も受けていないし、既に集めてきた手駒達との撃ち合いに戻っている。だが、あの殺気は本物だ。少なくともあれを味わった後で、確実に殺れるとは断言出来そうも無い。

仕方ない。ここでゲームオーバーだ。かなり苛立たせるだろうが、死柄木弔に報告するでしょう。

グチャリ、グチャリと肉が床に叩き付けられる音がする。

「そいつが対平和の象徴用、脳無」

「抹消」は個性と関係なく強力な力を持つ脳無には関係ない。ボキリと肘が、小枝でも折るようにへし折られる。

「死柄木弔……」

「黒霧、13号はやったのか？」

「行動不能にはしましたが、……生徒の1人には逃げられました……」

「はあ……？ ……お前がワープゲートじゃなかったら塵にしてたよ……！ ——

あーあ、今回はゲームオーバーだ。帰ろつか。……だがその前に、平和の象徴としての矜持を少しでも——へし折って帰ろう!!」

死柄木弔の指が偶々そこに居た生徒に伸びる。触れた物全てを崩壊させる手が迫る。五指で触れ、しかし。

「チツ……本当にカツコイイぜ、イレイザーヘッド。脳無。そいつの首を折れ」

(ヤバい。ヤバいヤバいヤバいヤバい!!)

偶々そこに居た生徒の1人である緑谷は、究極の2択を迫られていた。イレイザーヘッドの「抹消」は、本人があんな状態である以上もう持たない。死柄木弔を倒して、蛙水を救うか。脳無を倒して相澤先生を救うか。どうする。どうする？ どうすればいい？

「その手を離せええええ!! スマアアアツツシユ!!」

結局選んだのは死柄木弔を倒す方。結論から言えば正解ではあったのだろう。ある意味では。

拳が突き刺さった相手は、脳無。死柄木弔を庇っていた。それはつまり、イレイザーヘッドが解放されたという事だから、状況は好転したとも言える——その点に限ってだけは。

代わりに、緑谷は脳無に掴まり、結局他の生徒達には死柄木弔の崩壊させる手が迫る。もう、彼らに打つ手はない。イレイザーヘッドは助けに入れる状態……どころか、起き上がれもしないだろう。脳無には100%スマッシュすらも効かない。終わった。死んだ。

そんな絶望は、脳無と共に吹き飛ばされた。

銃弾が効かないと見るや惜しげも無く銃を手放し、全力の——鍛え上げて来た個性も身体能力も全開で行う、クラウチングスタート。狙撃場所から戦闘地点を助走としてそこから繰り出されるのは、オールマイトを除けば、世界で1番強い——飛び膝蹴り。

結果は、数メートル吹き飛ばされた脳無の姿。

「おいおい……シヨック吸収のハズだぞ……何をやってる！ 脳無！ そいつを殺せ！」

「シヨック吸収ね……ネタバラシ有難う。だったら中だ」

脳無の拳を受けながら、眼球に向かって思い切り指を打ち込み、そのまま抉り出す。これが出来たのは、脳無の拳を受け止められる個性を持つている彼女だからだ。要は相

性である。

「蛆虫共。語る言葉も無い。ただ死ね」

「おいおい、目を背けて良いのかいヒーロー？ 脳無はまだ終わつちやいないぜ？」

「何？ ぐっ!!？」

抉られたはずの目は何事も無かつたかのように復活し、銃のヒーローを殴り飛ばす。

「これは超再生の個性さ。……誰もショック吸収だけとは言つてないだろう？」

「ゴホ……！ 良いだろう……ならば死にたくなるまで殺してやる」

殴り合う。抉り出す。再生する。殴り合う。抉り出す。再生する。彼女の攻撃は有

効打にならず、脳無の攻撃は一撃一撃があまりにも重い。

その差は徐々に現れてくる。段々と動きが鈍る者と怪我をすぐに回復させ万全のま

ま動く者。勝負の結果は見えている。

だが、とにかく時間を稼いで、稼いで稼いで——報われた。

入口のドアを吹き飛ばす轟音。まだ遠くだというのにここまで届くような声。

「もう大丈夫……！ 私が来た」

「……コンティニューだ」

オールマイトが来て、事態は直ぐに収束へと向かう……訳ではなかった。

対オールマイト用に改造されたという脳無。その看板に偽りは無かったようで、オールマイトと直角以上に打ち合っって見せて、更に黒霧との協力でオールマイトを拘束する事にまで成功していた。

事実、轟と爆豪が合流出来ていなかったらオールマイトの命も危うかったかもしれない。轟は氷結によつて脳無の身体を砕き、爆豪はその洞察力によつて黒霧の本体を捉えていた。

凍った身体を砕きながら再生した脳無がまず行つたのは黒霧の奪還。オールマイトが身を呈して庇つていなければ、生徒が1人殺される事になつていただろう。

「3対5だ……俺達でオールマイトのサポートすりゃあ……！」

「3対6だ……ゴホッ。クズは殺さねば……殺す。……絶対！」

脳無にやられて、一時離脱していた彼女も加わろうとする。

「いや、下がっている。脳無は、私が相手をする」

大言壮語に思えたそれをしかしオールマイトは成し遂げて見せた。小細工無しの真つ向からの殴り合い。ショック吸収を無効化する程の100%を超えた威力の拳の連続。

「開け。黒霧」

「宜しいのですか？」

「良いわけが無い……本当にゲームオーバーだ。雄英の教師達も来る。……けど、今ならまだ逃げられる。早く開け」

全員の目が脳無とオールマイトに向いている隙に、リーダー格の2人は逃げ出した。脳無はオールマイトにより退治され、残ったヴィラン達も戦意を失うか、既に生徒たちにやられているかが大半だ。事態は解決したと言っていいだろう。ほぼ。

「どけ、オールマイト。そいつらは塵だ」

「どけないな。もう充分だろう？ ワープゲートもない。アイツらは順当に逮捕されるだろうさ」

「逮捕……？ 尚更有り得ん。あの蛆虫共に生きている価値はない。早くそこをどけ。こうして話している間にも、クズ共が呼吸をしている」

「そんな睨まないでくれよ。仲間じゃないか？」

「笑わせるな。私にしているのは敵と、敵の敵だけだ」

「ははっ、手厳しいねえ！」

「ヴィランの生き残りの処遇だけが問題として残っていた。

このやり取りは結局、彼女が脳無から受けたダメージにより気絶することによって終わりを告げた。

『雄英襲撃。死者62名。逮捕者38名。到底ニュースには載せられないねえ』

「申し訳ありません」

『いや、責めている訳じゃない。君のおかげで幸いにも雄英生徒達に被害は出なかったからね。これなら印象操作も容易いさ』

「……」

『さて、オールマイトの護衛中悪いんだが、君に仕事だ。ヒーロー殺しを捕らえてくれ……と言っても君の事だから聞いてくれないだろうね。生死問わずで構わないよ』

「了解しました」

『細かい情報は分かり次第伝える。準備だけしておいてくれ。……既に何人ものヒーローが殺されているが、君には期待しているよ。ヴィラン・アンサンブル』

「はい。それでは」

本編 (3/n)

倍速、倍速、また倍速。イベントに殆ど関わらないRTA、はーじまーるよー。

前回はUSJ襲撃が終わったところでしたね。次に起こるイベントは雄英体育祭です……が、今回のプレイではほぼ関わる事はありません。この時点で原作の雄英教師陣に欠員が出ている場合を除けば体育祭において何かやる事はありません。一般警備員Aです。

この次に起こるイベントである職場体験も同じようなものです。自身がプロヒーローとして事務所を持っている場合は生徒を受け入れ、職場体験編へ突入する場合がありますが、それ以外の場合は職場体験があった、の1行でおしまいです。とつとと林間合宿編まで行きましょうか。

という事で容赦なく倍速をかけていきましょう。ですがその間退屈だと思えますので。

み な さ ま の た め に

雄英体育祭について説明していこうと思います。

まず雄英体育祭とは……: [Wikipedia](#)でも読んでおいてください。それかア

ニメでも見てください。説明は以上……冗談です。

簡単に説明するとプロヒーロー達に凄いところ見せて青田刈りしてもらおうという面接会場みたいなもんです。強個性が強個性を見せつけるデモンストレーションの場です。

基本的には才能マンである爆豪が優勝するのですが、事前にフルカウルを習得させていると緑谷が。事前に家庭環境を改善させておくと轟が優勝する確率がぐんつと上がります。

ちなみに強化後の2人と爆豪が戦闘経験がある場合、その2人に対抗する戦術を身に付けてくるためやっぱり爆豪が優勝します。才能マンがよお、ぺっ。

雄英生徒プレイで雄英体育祭で優勝したい場合には爆豪対策が大事になってくるでしょう……まあ、そこにだけ注力していると心操に操られて予選落ちしたりもしますが(25敗)

翻って教師プレイですが、殆ど関わる事は出来ません。関わる手段としては特定の生徒と師弟関係を結んでいる場合が代表的でしょうか。

この場合は各競技後に動きへの助言をする事で生徒のステータスを微小ながら上昇させる事が出来ます。

また、最後のトーナメント戦で対戦相手への対策を教える事で勝率を上げることが出

来ます……が、一部の生徒は拒否してくるのでその場合は無理です。誰が断ってくるかは wiki でも見てください。(他力本願寺)

今回はなんの面白味もなく爆豪が優勝しました。他の生徒が優勝していたら林間合宿でのヴィラン連合の行動パターンが変化するので良かったです。(2敗)

……なんで等速に戻す必要があるんですか？

はい。ご覧の通りイベントが発生しました。インゲンニウムの負傷に伴う委員長の職場体験は、基本的にマニュアルの所になるのですが……一定の条件で変化します。例としては、マニュアルが既にヒーローで無くなっていたり、より友好度の高いヒーローが保須を担当している場合ですね。

今回の委員長は私の所に職場体験の申し込みに来ました。なんでえ？

USJの殺戮で生徒達からの友好度は地を這っていてもおかしくは無いのですが……逆にそれで復讐の為に利用できると思ったとかですかね？ まあとにかくそんなタイムをロスするだけのイベントなんて断って……断わ……こと……

断れませんでした。(憤怒) ロス確定です。

ごめん、同級会にはいけません。私は今、生徒達と一緒に駅にいます。保須市に向かう電車を待っています。……本当は、このガバイイベントはやりたくないけれど、でも今はもう少しだけ、知らないふりをします。速攻でヒーロー殺しを叩きのめせば、きつと

ガバは最小限で済むから。

という事でヒーロー殺し編です。保須市を彷徨っているとランダムで出現するのでひたすらパトロールをしましょう。この際普通のヒーロー活動をしているといざステインが現れた際に即座に向かう事が出来なくなる可能性があるため、困っている市民はスルーします。まあヒーローじゃないからね、しょうがないね。

1日目、現れず……2日目……現れず。頭にきますよ。この現れない時間は本当に何も出来る事が無いので現れなければ現れないだけ時間のロスです。ガバです。

やる事があまりにも無いので委員長のカウンセリングをしてパトロールを続けます。時間泥棒。馬鹿が代。

3日目……現れ……ました。(完全勝利) 脳無によるビルの爆破が出現の合図となっ
ています。爆破が起きた後に路地裏を調べると確定でステインと会うことが出来ます。
出来れば自力で発見したかったです……まま、えやろ。(クス運)

ステインと遭遇したら回避不可能の会話イベントです。この会話はプレイヤーキャラの善悪度、殺害数、ステータス等で細かく変化します……がどうせ連打で飛ばすのでなんでもいいです。

続いてインゲニウムからの一連イベントとして委員長とステインの会話が発声します。この会話は委員長長の精神状態によって変化します……がどうせ連打で以下略。

さて、それではステイン戦開始です。この際ステインに襲われているヒーロー（多くの場合はネイティヴ）を助けるとステインポイントが上昇し向こうからの殺意が鈍ります。どうせ向こうのとる戦術はとにかく傷を作ってそこから血を奪うというものなので、変わりません。無視しましょう。

序盤戦は持久戦です。血を奪われないように立ち回りながら遠距離でチクチクと削っていきましょう。取り回ししやすい拳銃を用意しておきました。またいつものコスチュームではなく防刃のコートを着ているので刃が気休め程度には通りにくくなっています。

まずは時間を稼いで、緑谷の乱入を待ちましょう。到着時に1発入れてくれるので少し役立ちます……が、本命は彼ではありません。緑谷が呼んでくれる轟が本命です。キープ君。

緑谷が来たら、生徒二人のフォローに徹します。目的は経験値を二人に稼いでもらうことです。特に緑谷にはフルカウルの経験値を稼ぎまくってもらいましょう。

炎が飛んできたら轟が合流してきます。決めに行きましょうか。

まずは轟に壁に炎を纏わせてもらって地上戦しか出来ないようにします。次にフルカウルとエンジンを活かしてもらってステインの裏に委員長と緑谷を配置します。

挟み撃ちの態勢が整ったら接近戦を挑みましょう。腕を握り潰してやりたいところ

ですがステインの反応速度にそれは無理というものです。ライフで受けましょう。まず相手の武器を筋肉で受け止めます。個性の恩恵もありまず切断はされません。(1敗)

すると即座に武器を捨てて上に飛び上がって逃げようとするので銃で追撃します。仕留められるかは半々といったところででしょうか。今回は上手いこと弾かれました……が問題ありません。後はステインの背後の2人が勝手に追撃してくれるのでこれで勝ちです。工事完了です……

ステインを倒したらさっさと殺害したい所さんですが、それをすると緑谷が脳無に誘拐されたり脳無を燃やそうとしたエンデヴァアの火に巻き込まれたりします。(19敗)なので縛って放置が安定です。

はい。脳無が緑谷を誘拐しようとしてステインに殺されましたね。ではステインを殺しましょうか……といきたいところですが、ダメです。マスコミが見てるからです。

マスゴミに殺人がバレるとどうなるかは原作のホークスを見てもらえれば分かるでしょう。広範囲を攻撃出来る個性で目撃者を全員消せるなら別ですが、そうでないならやらない方が良いです。というかエンデヴァア達もいるので殲滅なんて無理です。

素直にステインをお巡りさんに引き渡したらヒーロー殺し編はおしまいです。キリがいいので今回は……もうちよつとだけ続くんじや。

最後にお巡りさんから3人へのお説教イベントが入ります。原作では病院で行われましたが今回は誰もそんな怪我をしていないので雄英で行われます。

どうせ茶番のようなお説教ですが一応庇っておいてあげましょう。友好度が微増します。多分。

犬のおまわりさんの怒りの矛先がこちらにも向いたところで今回はここまで。ご視聴ありがとうございます。

おまけ3—1

「先生。お願いがあるのですが」

職場体験の希望調査を取ったその日の終わり、飯田天哉は公安から来た教師、アンサングの元を訪れていた。

「珍しい。どうしましたか?」

「職場体験についてです」

「……確か、保須のマニユアルの所を第一志望にしていましたね。変更なら、私よりイレイザー……相澤先生と話した方がいいかと」

いつも通り全く愛想もなく、突き放すようなセリフを口にする。別に怒っている訳でもなくこれが素ではあるのだが、そんな接し辛い彼女の元を生徒が訪ねてくるのは珍しい事であった。

「いえ……実は、先生の所で職場体験させてもらえないかと。そのお願いに参りました」
「私の? ……公安志望の生徒がいるなど聞いた覚えはありませんが」

「公安志望という訳では無いのですが……先生の元で見聞を広めたく。普通のヒーローの元では学べない事が学べると思ったので」

「相澤先生には話ししましたか？」

「はい。先生の許可を取れるなら構わないと言われました」

「なら結構です。相澤先生には許可が降りたと伝えてもらって大丈夫です」

そんな簡単に？　と言いたげな飯田をよそにさっさと帰ろうとする。相も変わらぬコミニケーションを取ろうとしないその姿には、色々な意味で不安を感じざるを得ない。

「理由は、聞かないんですか……？」

「？　聞いて欲しいなら、職場体験中にも聞きますが……」

そういう訳では。そう言っつて口ごもったのを最後に会話は終わる。

職場体験先の変更。それも普通のヒーロー事務所から本来有り得ない公安所属の元へ。この選択が吉と出るか凶と出るか。まだ、誰にも分からない。

職場体験当日、雄英生徒達はそれぞれの職場体験先の事務所に向かうため、朝早くから駅のホームに集まっていた。

「よし、コスチュームは持ったな、学生のお前らはまだ公共の場での着用は不許可だ。絶

対に落とすなよ、……よし、くれぐれも失礼のないように気をつけろ」

相澤先生が、はしゃぐ生徒達に最後に釘を刺す。ここで引率も終わり、みなバラバラに目的地へと行く事になる。

「飯田君……、本当にどうしようもなくなったら言つてね、友達だろ」

「ああ」

「挨拶は済みましたか？ ……では、行きましようか。飯田君」

「はい」

日が経つにつれて言葉少なに……雰囲気重々しくなっていく。それに気がついてはいたが特に問題だと思わず、何もしない。ヒーローとして、そして教師として不合格ではあるが、今回に限っては飯田もそんなものは彼女に求めてはいなかった。

移動は列車。ボックスタイプ。どこに座るか少し悩んで、斜め向かいに座ることになった。

ここから暫くは電車に揺られる事になる……という事はまだ説明していなかったか。

「飯田君。保須で降りるのでそこまではゆっくりしててください」

「保須!? その……ヒーロー殺しが訪れたあの保須ですか？」

「ええ。他にないでしょうし」

しばし、沈黙が場を支配する。飯田は突然自分が求めていた場所に行けると知った衝

撃で。彼女は……いつもの無愛想故に。

先に沈黙を破ったのは、意外にも彼女の方からだった。

「飯田君。時間もありませんし、職場体験の理由でも話してくれませんか？」

色々な意味で驚くべき一言だった。まさか、この先生が生徒に興味を示すとは。とか、やはり理由は知らなかったのか。とか。

そんな衝撃をどうにか飲み込んで。ぽつりぽつりと話し始める。

「先生はヒーロー殺しを知っていますか？」

「ええ……とても、よく」

「それに……ソイツに、兄さんが襲われました。下半身には麻痺が残る重傷で……もう、ヒーローは続けられなくなりました」

「復讐ですか？」

「そうしてやりたいと……思う気持ちはあります。だからこそ、先生の元に来ました」
「それなら私の所に来るより、マニュアルの所に行った方が良かったのでは？ 私の所に来たとして、ステインと戦うかは分からなかったでしょう？」

その言葉を受けて、飯田の表情が歪む。怒りを堪えきれないかのように。

「最初はそう考えました。……しかし、相手はヒーロー殺しです。僕1人では……正直、敵わないでしょう。そして、マニュアルさんは子供がそんな事件に関わるなんて事を、

許してはくれないでしょう」

その怒りは、ヒーロー殺しに向けられたものか。それとも、力のない己の不甲斐なきへか。

「……私に何を期待しているのですか？」

「言葉にするのは、とても……難しいです。というより、僕自身にもよく分かっていないのかも知れません。最初は、先生に鍛えて貰おうと思いました。USJの……アレを見て」

「貴方は、ヒーロー殺しを殺したいのですか？」

「……はい。とは断言出来ません。許せないとは思いますが。この手で捕まえてやりたいとも。ただ……その時、僕はどうしたのか……答えは、まだ出ません」

「……少し、昔話をしましょうか。何かヒントにでもなる事を願って」

そして彼女は語り始める。彼女を殺人鬼たらしめた、彼女のオリジンを。

ごく普通の家庭に生まれた、ごく普通の女の子でした。強いて言うなら個性の発現は少し遅かったかも知れませんがね。

ですが両親は落胆することも無く、愛情を持って育ててくれました。その頃の私は、

未来は輝いている物だと信じていましたね。ヒーローになるんだ、なんて馬鹿みたいに語って。私が生協の頃から、オールマイトは人気でしたね。

丁度個性が出る1日前です。家にヴィランがやってきました。……ムーンフィッシュ。知ってますか？ ええ、その死刑囚のです。まあ当時はそんな名前は付いてませんでしたが。

家のチャイムが鳴って、応答した父がドアごと刺し貫かれました。

母は私をクローゼットに押し込めて、ヴィランの元へ向かいました。ヒーローでもない2人がどうなるかは……まあ言わなくても分かりますかね。

私が脅えてクローゼットの中で声も気配も殺していると、ズルズルと何かが引きずられてきました。……ええ。2人の死体です。そこでムーンフィッシュは解体を始めました。個性の歯を使って、先の方から肉を少しづつ、少しづつ削いでいって。断面を見る度に恍惚とした声を……顔色が悪いですが、大丈夫ですか？ ……なら続けますね。

隠れていた私の前には、人間二人分のサイコロステーキが作られています。あの時、せめて私に個性があつたら……そんな事を思ったこともありましたが、まあ死体が一つ増えていただけでしょうね。

まあ、要するに、君と同じな訳です。ヴィランに身内を襲われて。そのヴィランに憎悪を抱いた。ね？ 一緒にしよう。

転機があつたのはそれから何年か経つた後。公安の……少し特殊なヒーローにスカウトされました。何が特殊かは、U S Jで分かつたと思います。他言無用ですよ？

いつか、いつか絶対に復讐を遂げてやる。そんな事を思っていました……ある日、実に呆気なくムーンフィッシュは逮捕されました。判決は死刑。

やった。当然の報いだ——なんて、全く思えませんでした。

衣食住も全部保証された牢獄で過ごして、人としての尊厳を保つたまま死ぬ。そんな最期があつた男に相応しいわけが無い。

その時私は思いました。世の中、罪と罰が見合っていないのでは無いのか？ と。

後はもう、あまり語る事ありませんね。ムーンフィッシュへの憎悪は、ヴィランへの憎悪へと変わりました。私は悪を許せない。今この瞬間呼吸をしていることすらも、奴らには死だけが相応しい。

「——私の原点は、こんな所でしようか」

彼女には似つかわしくないほどの長話。彼女の原点。

果たして自分はどうだろうか。飯田は考える。少なくとも今、自分の憎悪はステインに向いている。自分も、もつと広い憎悪へと変わってしまうのだろうか。そもそも、憎悪を持ち続けるのだろうか。：胸を張って、そこまで憎めるか。

「…着いたようですね、降りましょうか。」

「はい。」

「…：職場体験中に、もう少し話をしましょうか。」

「それは…有難いですが、宜しいのですか？そういうのは嫌っているのかと…」

「私のような人は、増えない方がいいでしょうから。」

飯田にはまだ、分からない。この感情をどうすれば良いのかも、自分がどう動くべきなのかも。

ただ。同じ悩みを持つ人間が近くにいるというのは、少し、心強かった。

おまけ3—2

華々しい活躍ばかりが取り上げられるが、ヒーローの基本は足だ。街のパトロール、困っている人の手助け、情報収集。地道な活動を怠る者は、ヒーローとして名を残せない。

そしてそれは、彼女達にとっても同じである。ヒーロー殺しの打倒。大層な目標ではあるが、実際にやっているのは足を使った見回りだ。

異変の兆候が無いかを探すというのは勿論の事として、潜みやすそうな所は無いか、実際の戦闘時に使われそうな逃げ道は無いか、そういった事を今の内に確認していく。華も面白味もないが、土地勘の無い場所でヒトを仕留めようとするならやらざるを得ない。

必然的に、見て回るのは人気の無い場所が多くなる。廃ビル、裏路地……まあ、そういった所だ。

幾つ目かの裏路地に、そこには似つかわしくない子供がいた。なんてことは無い、ただの迷子だ。

彼女——アンサングは、放っておこうとした。優先度は低いし、どうせそのうちパト

ロールをしているヒーローが見つけて保護するだろうから。昔ならいざ知らず、今はヒーロー飽和社会と揶揄される時代だ。お節介焼きなど幾らでもいる。

しかし。同行者——飯田天哉は、迷子を放っておけるような人間ではなかった。

止める間もなく迷子の元へ。大丈夫だ、もう心配ない。そんな声をかけた後で、彼女はそんな行為を嫌いそうだと思います。

「先生！ 申し訳ありません！ しかし、放っておけなかったので！」

恐れゆえか、声が大きくなる。それを聞いてため息ひとつ。

「構いません……が、私達はこの街に詳しくありません。地元のヒーローに送り届けて、後は任せましょう」

「あ……ありがとうございます！」

裏路地を出て、大通りを迷子を連れて歩く。幸いにしてヒーローはすぐに見つかった。コスチュームを着ているのにヒーローでは無いのかと訝しがられたが、英雄生だと言うと納得された。知名度というのは便利な物だ。

迷子の子供も、どうやらそのヒーローの事は知っていたらしく。預けると子供らしくはしゃいでいた。ヒーローが子供から好かれるのは何処でも変わらないらしい。ご機嫌になった子供から手を振られ、一段落。

「……少し、休憩しましょうか」

連れ立って行ったのは何の変哲もないファミレス。コスチュームを一部外して一息入れる。それにしても、彼女には似合わない場所だ。というか、食事をしているところすら想像しにくい——

「なんて思っているのでしょうか？」

「は——い、いえ。そんな事は」

「構いませんよ。自覚はありますから。——さて、今回は君に話をしてもらいましょうか」

「僕の……？　そう言われても、何を話せばいいのか……」

「そうですね……では、何故君はヒーローになりたいんですか？」

何故ヒーローを志したか。人によって答えは違うだろう。金の為、名誉の為といった世俗的なものから、憧憬、克己といった精神的なものまで。雄英を受験するにあたって答えたような面接の為の欺瞞では無く、心の奥底にある自分の原点。

「ヒーローに成りたい理由……改めて問われると、難しい——」

「そんなに気負わなくていいんですよ。思い浮かんだ事を適当に話してみてください。単なる雑談なんですから」

「僕は——」

祖父がヒーローだった。両親がヒーローだった。兄がヒーローだった。そんなヒーロー一家に産まれた僕は、ヒーローになることを期待されていたし、僕自身もそうなりたいと思っていた。

どうして？

果たして僕は何故ヒーローに成りたいと思ったのか。僕自身の意思だったのだろうか。流されて決めたただけだったのだろうか。

……昔、兄にヒーロー活動について聞いた事があった。『兄さんはどういう思いでヒーロー活動を続けているんだ？』確か、そんな事を。

『迷子を見かけたら迷子センターへ手を引いてやる。そういう人間が一番かっこいいと思うんだよな』兄さんは、そう答えた。

僕はその時、では何故迷子センターに勤めなかったんだ？ などと聞いてしまったけど。そうだ。きっと、心の底ではその時から分かった。

困っている人を助けてやる、泣いている人に手を差し伸べてやる。当たり前前的事を当たり前前に出来る。それが一番大切な事で、カッコイイ事だ。

「——僕は、兄さんに憧れていたんです。兄さんのように……迷子を見かけたら迷子セ

ンターへ手を引いてやれる。そんな人に成りたくて……ヒーローを、志しました」

「原点の自覚は大切な事です。後は貴方が何をしたいか」

「何が……したいか……？」

「もつとはつきり言いますようか。貴方は血塗れの手で、さつきのように子供の手を引くつもりですか？」

それは、至極単純な話。それとも経験談と言うべきか。自分のような人間は増やしたくないという願いでもある。

現実には行動と言動が伴わない人間など幾らでもいる……が、目の前の少年がそんな腹芸の出来る人間でない事は分かっていた。それ故の言葉。

効果は覲面だったようで、少年の目から迷いが取り除かれる。

「さて、貴方の手は何の為に？」

「僕は……僕の手は、迷子の手を引いてやる為に。雨に濡れた人に傘を差し出してあげる為に。ありがとうございます先生……僕は、大事な物を見失っていました」

「私はただ話を聞いただけです。その答えに辿り着いたのは、貴方がヒーローに相応しい人間だからでしょう」

そう言つて、彼女は初めて。今まで一度も見せた事のない頬笑みを浮かべた。それは焼け爛れた醜さを覆い隠す程に綺麗で。だけど何故だろうか。それは同時に、とても

……哀しい物に見えた。

保須市に来てから3日目、始まりは当然、かつ派手に起こった。

ビルの爆発。人で賑わっていた街に突然起きたその事故は、あつという間に災害と呼ぶに相応しい規模へと広がって行つた。

それは当然街の見回りをしていった2人の目にも止まる。

「先生……あちらの救助に……！」

「いえ……先客が居ますので。そちらが優先です」

何を……そう思つて彼女の視線の先を見やると、路地裏に倒れた男が1人と、その傍で刃物を構える男が1人。

考えるより先に体が動いていた。トップヒーローの多くはそう語るといふが、この状況の中で彼もその例に漏れなかった。

個性の力で加速し、一気に倒れている男の元へ駆け寄る。新手に驚いてか、刃物を構えた男——ヒーロー殺しは飛び退る。その隙をついて、見事に救い出して見せた。

「こんばんは。良い夜ですね、ヒーロー殺し」

「貴様ら……何だ？」

そして彼女等は対面する。殺人鬼同士の出会い。すぐにも殺し合うかと思えた彼女等は、意外にも理性的な会話から始まった。

「公安の掃除屋です。覚えなくて結構ですよ。どうせ、一生牢屋ですから」

「掃除屋……？ ああ、聞いた事がある。汚れ仕事を請け負うヒーロー擬き。……公安の狗風情がヒーローの真似事など……度し難い」

「知っている人は大体死んでる筈なんですけどね。何処で噂が流れてるのやら……」

「そっちの子供も仲間か？ 子供まで使うようになるとは……堕ちたものだな」

その言葉に、救助を終え戻ってきた飯田が反応する。堕ちた、などと上から目線で評してくるヒーロー殺しに我慢が出来なくなったせいか。

「ヒーロー殺しステイン……！ 僕は……僕は、お前にやられたヒーローの弟だ。兄に代わり、お前を止めに来た！ 子供などでは無い！ 僕の名はインゲニウム！ お前を倒す……ヒーローの名だ!!」

ヒーローという言葉聞いて、ステインの顔に殺意が宿る。

「そうか……死ぬ」

ヒーロー殺しステイン。個性、凝血。相手の血液を摂取する事により相手の身体の自由を奪う。

接近戦において必殺と言っていていいその個性は、彼女達の攻め手を慎重な物にさせた。傷一つで勝負が決まるとなればそうもなろう。

しかし、ならばステインが有利に戦闘を運んでいたかというところ、それでも無かった。理由はアンサングの持つ武器。

50口径の拳銃。突っ込んでくる自動車を一発で止めるとまで謳われたその武器は、生身の人間に向けるには余りに強力だ。

頭や胸に当たれば即死、手足だったとしても戦闘続行は望めない。

お互いが一撃必殺の手を持つ。それが生んだのは膠着状態。だがそれも。乱入者によつて崩される事になる。

「スマアアツッシュ!!!」

想像もしていなかった第三者——緑谷出久——の攻撃に為す術なく——否。驚異的な反応速度を見せ、刃物一本と引き換えに防いで見せた。

だがこの乱入が齎したのはそんな小さな小さな成果だけでは無い。単純な手数増加。ただ相対しているだけでも精神の疲労は段違いだ。

更に攻撃の手数は増え、隙をつこうとしても銃弾がそれを邪魔する。余りにも上手く

いけない戦闘に、ステインは怒りを隠しきれない。

更に悪い事に——生徒達にとつては更に良い事に。炎と共に増援がまた一人やつて来た。

緑谷がここに来る前に予め位置情報を送つておいた轟焦凍だ。

想定外だが、これは良い駒が揃つたと、アンサングが酷薄な笑みを浮かべる。

「轟君、壁を炎で覆つてください。緑谷君、飯田君。援護するのでヤツの裏に回つてください」

指示の通りに生徒が動く。背後に回ろうとする2人から血を採ろうとステインが動くが、銃弾に阻まれる。銃弾を避けている時点で尋常ではない身体能力をしている事は明白だが、アンサングによりそれを活かす事が出来ていない。

「……戦闘は、こつちの方が得意なんですよ」

身を低くしたかと思うと、爆発音とともに異常な速さでステインの元へ距離を詰める。拳の間合いまで詰め寄り、繰り出したのは単純極まる正拳突き。

当然、ステインはそれに反応する。カウンターの要領で繰り出されたナイフ。それを敢えて手で受けて固定する。

その意図を察したステインは武器を捨て即座に上へと跳ぶ。

「今です」

そこに、飯田と緑谷の渾身の一撃が叩き込まれる。

ステインの敗因は、単純に数の差だと言っている。一撃必殺の手段を持ちながら牽制に徹した女、機動力を持ち此方に個性を使わせなかった子供達、炎で逃げ場を奪った子供。どれか一つでも少なければ、まだ勝ち目は残されていたかもしれない。

だが、仮定に意味は無い。現実はどうして縛り上げられている。

「さて飯田君。こうしてお兄さんの仇を目の前にして気持ちは変わりませんか？」

もし変わったのなら。そう言いながらさつきまで使っていた拳銃を差し出す。

「僕の気持ちは変わりません、先生。此奴は司法に委ねます」

そうですか。と拳銃をしまう。そのあっさりとした態度に疑問の声が上がる。

「殺さないんですか!? あ、いえ……それが悪いって言いたいんじゃないやなくて、てつきり

……」

「本当だったら殺したいですが。一つ、殺人現場にするには目立ちすぎる。二つ、殺すよりも厄介になるヴィランもいる。そんなところです」

兎も角、これにてヒーロー殺しは確保され、めでたしめでたし——とは、ならなかった。

路地裏から出てきた緑谷を攫おうとした脳無。拘束から抜け出て、それを殺して見せたステイン。その最後の言葉。

「偽物オ……！　正さねば……誰かが血に染まらねば……ヒーローを取り戻さねば……！！　俺を殺していいのは、オールマイトだけだ！！」

アンサングはそれを聞いて、やはり全てを無視してでも殺しておけば良かったかと思いい直したが、視界の端にマスコミを捉えて、その選択肢は既に取れなくなった事を悟った。

これにてヒーロー殺し事件は解決。残っているのは後日談だけだ。

後日、雄英に保須警察署長が訪れた。ヒーロー資格も持っていないような子供達がヒーロー殺しに危害を加えた事についての糾弾。だが、アンサングが待ったをかける。巻き込んだのは私だと。そうではなく自分の意思だと言おうとした生徒達に目配せをして余計な事を言わないようにする。

「だとしたら、責められるのは君だ。よりによつて子供を戦わせるなんて。——と、なつてしまう訳だ。分かるかな？　子供達。……だが、まあついでにもう一つ。ありがとう。共に平和を守る者として、君たちの心は褒めてやりたいというのも、嘘ではないよ」
少しのお説教と、今回の事件解決への労い。及びそれに伴うヒーロー候補としての自覚。これが彼らへのご褒美であった。端的に言うなら、一皮剥けた。というところか。

『まさかヒーロー殺しを生かして捕まえるとは思わなかったよ。君も成長しているのかな?』

「殺せばむしろ祭り上げられるタイプの思想犯でしょう。アレは私が殺すより、ひっそりと忘れられた頃に死刑になった方がいい、そう判断しただけです」

『ははっ。口数が多いね。怒っているのかい? そんな君に朗報だ。いや、私達としては凶報なのだがね。……ムーンフィッシュが脱獄した』

「本当に?」

『嘘はつかないよ。……今回は必ず殺してくれ。奴が脱獄した事実ごと揉み消さなくてはならないからね』

「言われるまでもない。殺す。必ず。最大の地獄を味わわせてやる」

『期待しているよ』

本編（4／n）

フラグ管理ダルすぎ！ 林の中でヴィラン達と盛り合うRTAはーじまーるよー。

前回は保須編が終わったところでしたね。次は期末試験ですが、雄英教師陣が1人も欠けておらず、特に希望もしなかった場合は期末試験があつたの1行で全てが終わりま

す。
続いてショツピングモールでの死柄木との遭遇ですが、自分が生徒である時なら場合によつては死柄木に狙われたりもするのですが、教師プレイの場合は一切関わらずに終わります。こちらはテキストの1行も出てきません。

ということで林間合宿編です。

林間合宿……ヴィラン連合、雄英生徒陣共に多数集まり、些細な変化がガバを産み原作の流れを崩壊させるRTA走者泣かせのステージとして有名ですね。

例をあげると、少し脳無がやる気を出せば生徒達に死人が出るわ、ちよつと間違つて生徒がヴィランを殺すとその後の爆豪救出編に影響を出すし、運が悪いと爆豪どころでなく大量に拉致されたりするし、まかり間違うとオールフォーワンと遭遇したりします。こんな管理しきれないよ！

よって大切なのはやるべき事を絞ることです。例えば今回のプレイで言うと、神野の悪夢での決着を目指すので爆豪の拉致イベントは必須条件です。この為に必要なフラグはヴィラン連合に爆豪が拉致される事。脳無工場の場合を確定させる事。この2つです。

逆を言えば他はどうなっても構いません。この時点で茶毘を殺そうが脳無への発信機を作る八百万以外の生徒が殺されようがサーチと一緒に他のヒーローの個性をオールフォーワンに奪われようが構いません。

さて、次にやらなくてはならない事……つまりは強制イベントですが、教師プレイの場合ほぼありません。

生徒でプレイする際には1日目のドキドキ！ 森抜けパーティー！ 土塊魔獣も居るよ!!、2日目の個性特訓、3日目の肝試しを終えるまでほぼ強制イベントで流されるままになります。教師プレイの場合参加するイベントをある程度自由に選べます。

まあRTA的には1日目はただ生徒を待つだけ、2日目は自分のステータスに応じた生徒との特訓、3日目は補習組の護衛。これでいくのが最速なのでほぼこれで決まりみたいなのです。自由とは(哲学)

……なんて、言うとも思った? この程度、想定範囲外だよ!

2日目までは先述の通りですが3日目はヴィランの変化しまくる行動に対応する必

要があるため高度な柔軟性が必要となります。補習組の護衛に回るのは確かに最速ではありますが、その代わりにヴィランと戦闘する生徒達の死亡率が上がります。脳無に八百万がチエンソーマンされたり、青山が茶毘に燃やされたり、触手マンがダークシャドウに殺されたりします。

今回のプレイでは……全部説明しても面白くないので実際にプレイしながら説明しましょう。ここまでダラダラと説明している間に現在林間合宿2日目です。入浴イベント？ ホモには要らないでしょ。

今回は自分の個性が増強・異形型なので虎と一緒に身体強化に付き合っ上げてみましょう。主に緑谷との組み手です。時々シユガーマンと殴り合ったり委員長を追いかけ回したりもします。

余談ですがプレイする上で1番楽かつ早いのがこの特訓……と見せかけて、身体能力が低いかつ生徒に似た個性を持つ人がいない場合の補習教師役です。昼のイベントを全て飛ばすことが出来るので。まあその場合他の場面での難易度がインフェルノになるのでRTAには不向きですが。

という事で2日目も終わりです。特に何もありませんでしたね。実際特に注意点も無いです。強いて言うならシヨタガキと緑谷の会話イベントを潰さないように気を付けるぐらいでしょうか。それも基本的に放っておけば勝手に進行します。

はい3日目です。個性特訓は2日目と大差無いので解説は省略。

本題はレクリエーションの肝試しですね。生徒プレイの場合は最初のクジ引きによつて起こるイベント、取るべき行動が大きく変化します。これについては説明しているとあまりに長くなってしまっているのでここでは割愛させていただきます。先駆者のプレイでも見ておいてください。

今回の……つまり教師プレイの場合ですが、クジ引きとは違い自分でどのような行動をとるか選ぶことが出来ます。先述した補習への参加、肝試しへの参加、お〇んこ子猫達との交流などなど。フラグさえ回収していればシヨタガキを追いかけてマスキュラーとの戦闘も可能です。

自由度が高いので最優先目標を一つ決めて行動を選ぶと良いでしょう。やはりRT A的には最速を目指したいところです。ここでのイベントの終了条件は全敵の撃破或いは爆豪の拉致です。

なので最速で全敵の撃破を狙いたいところですが、最初の方でも言った通り爆豪の拉致は必須条件となっています。何が言いたいかというと、今回の最優先目標は最速ではないということです。

じゃあ何が目標なんだよ！ とホモの皆さんがお怒りだと思うのでさっさと言いましょうか。目標はトウワイスの抹殺です。

作中で国を落とせるとまで言われた個性は伊達ではありません。覚醒されたら終わりと考えてもらって構いません。今まで経験した最悪では神野でハイエンド脳無を増やされました。数十分で日本が崩壊する様はある意味見物でしたね……

因みにオールフオーワンを増やされる事はありません。理由は分かりません。魔王の美学とかですかね？ 覚醒死柄木は増えます。当然日本は崩壊します。

さて、トウワイスの抹殺方法ですが……地道に森を探索しましょう。なので3日目夜の行動は肝試しの安全管理役になるか一人になるを選ぶかしましょう。

そして炎が上がったらそちらに向かいます。ピンク色のエッチそうなガスを先に見してしまうとそちらに向かう事になるのでロスです。祈りましょう。(45敗)

今回は見事炎を引き当てました。茶毘と一緒にトウワイスがいるので火元に、イクゾー！ デツデツデー——

なんで操作不能になるんですか？

解説します。今回の原因を一言で言うとお、因縁です。貴方も嫌いな相手が見界に入ると、今まで考えていた事を忘れて嫌悪感が来たりしませんか？ まあ私は嫌悪感を持たれる側の人間ですが。(1919810敗)

友好度の高いキャラの仇や家族の仇といった相手に対しては強制戦闘が発生します。恐らく原作開始までスキップしたところで何かしらが発生していたんでしょう。これ

を専門用語でクズ運と言います。特にマスキュラー、ムーンフィッシュ、茶毘の3人は因縁が発生しやすいです。

今回は……ムーンフィッシュですね。茶毘ならトウワイスも纏めて倒せた可能性があるあるのでハズレです。因みにマスキュラーはシヨタガキのイベントを起こさない限り戦闘にならないので2分の1に負けています。

さあムーンフィッシュとの戦闘に入りましょうか。

と言つても、こちらの個性、及びステータス的に細かい戦術なんて要りません。真つ直ぐ行つて右ストレート。これだけです。

まずは状況確認。生徒はいない、ヨシ！ 襲撃前か、常闇ペアを襲撃後から轟ペアがくるまでの間のどちらかですね。とりあえず生徒を巻き込む心配は無くなりました。

とりあえずムーンフィッシュが伸ばしてくる歯をへし折りながら前進です。ムーンフィッシュとの戦闘は歯刃を砕けるパワー、歯刃を無視できる速さのどちらかがあればヌルゲーとなります。

まずは伸び切った歯刃を思いっきりぶん殴つてへし折る。するとそれをカバーするように歯が伸びてくるのでそれを掴んで思いつ切りぶん回す。ハンマー投げの溜めでグルグル回すイメージです。当然頭は木にぶち当たります……が、木を貫通する勢いで振ります。

そして……手を離す！ 新記録が出たんじゃないでしょうか（ハンマー投げ）さて、ではさつさとトドメを刺しに……なんで会話イベントが発生するんですか？

ほらダラダラと会話してるから歯を伸ばして……伸ばす前に歯を力ずくで抜きましたね……痛そう……

会話イベントが終わりました。さつさと始末してしまいましたでしょうか。こんな山の中ですし、放っておけば茶毘のつけた炎に勝手に焼かれて火葬まですむでしょうか。

はい、ムーンフィッシュとはお別れです。グチャツとな。

会話イベントのせいで予定より長引いてしまいました。こうなると時間も経っており火の元に行っても茶毘やトウワイスには出会えません。

とりあえず森の探索に……あ、その前に生徒達と合流してしまいましたね。ボロボロの緑谷もいます。こうなると生徒の護衛をしなければならぬのですが、あれ？ ……なんで爆豪がもう居ないんですか？

という事で爆豪の搜索開始です。コンプレスが見せびらかしてくれればそれを追えば辿り着けるのですが、今回は無理です。

さて、実はここで問題が発生しています。トウワイスを抹殺する為にはヴィラン連合が帰宅の為に集まる所を狙うのが確実。しかしその為には障子の感知能力が必須。しかし私があるこの状況は明らかに戦力過剰。下手したら爆豪を取り返してしまいます。

よって取るべき行動はさっさと帰る事です。トウワイス抹殺は今回に限ってはサブプランまで用意しているので断腸の思いで諦めます。

じゃあ生徒を説得して帰らせて……失敗しました。(憤怒)

もうこうなったら見つからない事を祈りましょう……え？ 見つけた？ なんでそ

ういうことするの。(激怒)

まだです。まだ蛙と無重力に会いさえしなければ生徒達は辿り着けませ……出会い
ました。(絶望)

という事で射出です。私は独力で行きますが。女は寄るな(ホモの鑑)

到着しました。(神速)さて、ここからどうしましょ……なんでまた強制戦闘が発生するんですか？

今度の相手は茶毘です。まあコンプレスあたりに発生して爆豪を取り戻しちゃうよりはマシでしょう。

ちよつと火力強すぎんよ。でもおかげで生徒がこちらに近寄れていません。これなら……

はい、黒霧到着です。そしてヴィランの皆様は即帰っていきました。おい茶毘！
ここまで来たなら首置いてけや!!!

何はともあれ、これで林間合宿編は終わりです。

結果は……生徒側死者0名！ プロヒーロー1名拉致！ 生徒1名拉致！ 重軽傷者多数!! 普通だな!!

とりあえず最低目標の爆豪拉致と八百万発信機は達成出来たので良しとしましょう。いよいよ本RTAも大詰めですね。あと1か2話ぐらいで終わるんじゃないでしょうか。一先ず、ご視聴ありがとうございました。

おまけ4

魔獣の森、だなんて仰々しい名前を付けているけれど、その実態はUSJと同じ。管理された危険だ。

生徒達は各々の個性を活かして土で出来た魔獣と戦っている。当然ある程度負荷がかかるようにはなっているが、逆を言えばそれだけだ。生徒の位置は常にサーチで把握されているし、魔獣も大きさや攻撃手段などを加減して作られている。管理された負荷。安全な危険。

それを茶番だ、なんて言ってしまうのは簡単だけれど。学校というのはそういう場所で、寧ろ学生のうちから本物のヴィランと戦う方がおかしいだろう。

「……まあ、私にはどうでもいい事ですわが」

安全管理という名目で派遣された森の中で、生徒たちを見ながら独り言つ。本当だったらこんなことよりもやりたい事があるのだが、今は教師として振舞っていかなければならないから……我慢するしかない。

遠くから土で出来た魔獣と生徒達との戦いを見る。好戦的な者、その逆の者。それぞれの個性——これは特異体質としてのそれではなく、その者の性格の方だ——が如実に

現れている。

しかしやはり目立つのは先頭で道を切り拓く者達だ。

爆破、半冷半燃、超パワー。実戦経験がある者はやはり違う。いや、1人はただの才能だが。

距離がある為声までは聞こえないが、率先して魔獣と戦いながら周りのサポートをしている。全員が直接的に攻撃出来る個性を持っている訳では無い。そのような者達を統率するのは、将来本物のヒーローと成った時にも必要となる事だ。

……とは言っても、やはりまだまだ未熟ではあるようだ。戦闘技術や連携などはともかくとして、個性出力の絶対値が足りていない。

爆破は魔獣を砕くほどの出力は無いし、超パワーは先に自分の体が砕ける。半冷半燃は周りを巻き込まないようにする精密性に欠ける。

鳥が翼を使うように、獣が牙を使うように。個性を得た人類は個性を武器として磨き上げるべきだ。ヒーローを目指す以上、荒事は避けられないのだから。

宿泊施設に辿り着いたのは、たつぷり時間が経った夕方。疲労困憊といった様子ではあるが、皆手も足も問題は無さそうだ。これならまだ訓練を続けても問題無いだろう……なんて思っていたが、どうやら今日はここで終わりのようだ。古臭い根性論は捨てられて、今は身体を苛めるのも理論的に、効率的に行われるらしい。

何事もなく、1日目が終わった。

「本日から本格的に強化合宿を始める。今回の合宿の目的は全員の強化及びそれによる仮免取得だ。今日から君らの個性を伸ばす。死ぬほどキツイがくれぐれも……、死なないように」

そんな言葉で始まった2日目。

個性を伸ばす。その方法を簡単に言ってしまうえば、筋トレと同じだ。

今までかけたことの無い負荷をかける。それに耐えられるように身体が成長する。更に負荷をかける。成長する。この繰り返し。

まあつまり。人によって方法に差はあれど、兎に角個性を使いまくれと言うことだ。

特に発動型の個性はひたすらに個性を使わされる。帯電、レーザー、爆破等大半の生徒はここに分類される。管理する側としては限界を迎えて倒れるまで放っておけばいいので楽だ。

私の担当は増強型……と言っても、B組がまだ来ていない今、ほぼ緑谷1人を相手にしているだけだ。

殴り合いに必要な身体を作るには殴り合いをすればいい、そうすれば勝手に動けるよ

うになる。私はそうやって作られたから、指導もそれしか出来ない。

「Detroit——」

「遅い」

力を込める為に生まれた隙に、蹴りを腹に入れる。頭の片隅で物思いにふける位には楽な指導だ。超パワーは私の個性の上位互換と言ってもいいだろうが、使いこなせないのなら宝の持ち腐れだ。

「溜めを作るのは隙を見せているのと同じです。もっと早く、意識せずとも撃てるようになりなさい」

「ハ、ハイ………!」

「声が出せるならまだいけますね」

「ハイ!」

ヤケクソ、といった様子で振り抜いてくる拳を捌く。せっかくの超パワーなら組技や絞め技も磨いておけばかなり有効な武器となるだろうに。その辺の教育も相澤先生や虎さんに提案してみようか。ちなみに私は技術的な物は苦手分野だ。相手を制圧する技術を学ぶより殺す技術を学んできたから。……本物のヒーローなら上手く教えてくれるだろう。

彼の攻撃に合わせて、カウンターの要領で拳を振り抜く。本日何度目かの肉を殴る感

触。殴られるのに慣れたのか、どうやら衝撃に合わせて後ろに飛ぶ技術を学んだよう
で。絵面程ダメージは多くないだろう。

「……10分休憩です。その後は虎さんの所に行くように」

「……グツ……ハイ」

いつソリカバリーガールがいればいいのに。あの人がいれば腕が折れようと足が折
れようと治癒して訓練を続けられる。実に羨ましい事だ。

……さて、次の相手は誰だろうか。増強型の個性持ちはB組を含めても意外と少な
い。場合によっては硬化やステイル等を相手にしてもいいかもしれない。偶には硬
いものに挑むのもいいだろう。

そんな風に、2日目も終わった。

3日目。

日中までは2日目と差程代わり映えのしない日だった。生徒達は引き続き個性を伸
ばすための訓練を行って、私は何人かの生徒と組手をして。

夜からレクリエーションの肝試しをするという宣言と、また押し付けられた安全管理
役に少し辟易していた。

そもそもただのお遊びに何事も起きないだろう……なんて、思っていたのでも束の間。森の一角に火の手が上がった。

原因究明、生徒達の避難誘導、待機してるヒーロー達への連絡。諸々やる事はあるが、一先ず現場に行くことが優先か。火の手が上がっている事は他の人も各々把握しているだろうから。

枝をへし折りながら木の上を跳び渡る。地上と違って障害物が無い分、明確な目標がある場所に行くならこの方が早い。

だがその足は、直ぐに止まることになった。

テレパスの声が聞こえてきたから？ 否。複製された腕の1つを切断された生徒を見つけたから？ 否。

ソレは、私がずっと会いたかった相手。私の原点。

拘束着を着せられ、開口機を付けられていても見間違えるはずもない。

「ずっとお前に会いたかった。ムーンフィッシュ……！」

ムーンフィッシュ。人を切り裂きその断面に美しさを見出す狂人。死刑判決が下されていたが何らかの手段で脱獄。

個性は歯刃。自らの歯を自在に伸縮・分岐させる。強個性とは言えないが、本人の戦闘経験により攻防一体の強力な武器となっている。

死刑判決が下される前の、まだ逃亡生活を送っていた頃には追ってきた幾人かのヒーローを返り討ちにもしている。

そんな彼は、惨めに地に伏せていた。

「さてムーンフィッシュ。今からお前に質問をする。ハイかイエで答えろ。答えなければ殺す。余計な事を言っても殺す」

「く、くるなあああ!!」

倒れたまま、伸ばした歯で何とか距離を取ろうとする。……が、簡単に避けられ、一飛びで距離を詰められ、マウントを取られる。最後の抵抗として再び歯を伸ばすが顔に拳を叩き込むことで根元からへし折られた。

「質問」。——年前。——でお前が殺した夫婦に覚えはあるか?」

「いだい……いだい……イギツ!」

うわ言のような言葉に悲鳴が混じったのは、歯を一本むしり取られたからだ。

「覚えはあるか? 詳しく話すか、死ぬかだ」

「あ……ある！　今までで一番にく見せてくれた!!　先に男の方からころした!　『妻だけは妻だけは』って言ってた!　バラバラにして、その後で女の方もころした!」

「その時お前は何を思った?」

「……た、楽しかった!　あんなにいつぱいにくをみせてくれたのは初めてだった!

男の方は硬くてしっかり形が残ったし、女の方は滑らかで綺麗なおにくを見せてくれた……ああ……きれいだったなあ……ガフツ!」

拳がもう一度顔面に叩き込まれる。拳に若干の擦過傷を与える代償に、ムーンフィッシュの武器は全て奪われた。

「もう充分だ。……楽に死ねると思うな」

先ずは腕を、関節の辺りでへし折った。ムーンフィッシュが苦痛に悲鳴を上げる。次に脚を。再びの悲鳴。

「やだ……いだい……いだい……お願いします……許してください……殺さないでください……助けて……」

その言葉に、マウントをとっていた女——アンサングの動きが止まる。命乞いに躊躇した?　いや、もしそうならこんな狂ったような笑みは浮かべないだろう。

「ずつと、その言葉を聞きたかった。お前が惨めに命乞いをしてくれるのを夢にも見たよ。私の答えは——年前から決めている。——嫌だね」

頸椎をへし折り、そのまま首を一回転。もうムーンフィッシュが痛みに苦しむことは無くなった。

二回転、三回転と繰り返して、ブチブチと音を立てて首から上を引きちぎる。

頭部だけになったそれを地面に置いて、踏み潰す。死体が見つかっても誰だかわからなくなるぐらいに念入りに。上手い具合にぐちゃぐちゃになったら森の中の火の手が上がっている方向に思いつき投げ捨てる。あとは勝手に燃え尽きるだろう。

きつと、ムーンフィッシュが脱獄した事実は揉み消され、何の問題も無く死刑が執行されたということになるのだろう。それでいいし、彼女にとってはどうでもいい事だ。

悪を一つ滅ぼした。それが大事なことであって、それをどう喧伝に使おうが知ったことではない。

怨敵を殺した達成感に浸っていたのも僅か。彼女は直ぐに意識を切り替える。

とびきりの餌につい食いついてしまったが、元はと言えば火の手の確認に行こうとしていたのだ。そしてムーンフィッシュがいた以上ヴィランの所業と考えていいだろう。

衝動のままに時間を使ってしまったことを悔いながら、彼女が現状の把握をしようと考えた時、人影が複数向かってきた。

敵襲かと身構えた所で正体に気がつく。何のことは無い。ヴィランが襲撃してきた時に森に居た生徒達だ。

「先生！ 大変なんです！ ヴィランが襲つてきて……かっちゃんが狙われて……！」

「……緑谷君……その、落ち着いてください。ヴィランは今どこに？」

「僕が1人は倒しました……後は恐らく他のヒーロー達との戦闘を……！ 皆が危な」

「落ち着いてくださいと言いました。かっちゃん……爆豪君ですか？ 何処にいるんです？」

「何処って……そこに……!?!」

そこ、と言つて指さされた場所はしかし誰もおらず。

「そんな……!?! さつきまで！ さつきまで確かに一緒に居たんです！ それに……常闇君も!?!」

どうやら、状況は思いの外悪いらしい。さつきまで居たという言葉から恐らく近くにいたはず。それを他の生徒誰にも気付かれずに2人も誘拐する手腕。卓越した技術と何らかの個性の組み合わせかと辺りをつける。

救出。しかし相手の場所が分からなければそれも出来ない。相手の場所は何処か。

ヴィラン達はもう目標を達している。襲つてきている集団——恐らくはヴィラン連

合にはワープゲートがいる。何処かに集まって纏めて帰るのが定石か。

そこまで考えて、彼女は指示を出す。

「障子君、複製腕で人が集まってる場所を探せますか？　ここで無理なら木の上にも運びますが」

「近くにいれば、俺の個性なら或いは見つけれられるかもしれません」

結論から言えば、その目論見は成功した。ヴィラン連合が退却の為に集まっていたおかげで、集団の気配を容易く察知することが出来た。

「さて……それでは、君達は帰りなさい。後は私が——」

「嫌です。ここまで来て見捨てるなんて出来ません！」

「その怪我で着いてくるつもりですか？　私の足にも追い付けないでしょうに」

「それは……それでも！　ここで逃げたら僕は——」

口論で時間を無駄にする事になるかと思われたその時。再び生徒が合流してきた。麗日と蛙水の2人だ。彼女達のおかげで、この口論は解決となる。

講じた策は、無重力による人間砲弾。

アンサンングによる正面突撃と生徒達の空からの奇襲。ヴィラン達に慢心があればきつと通用していただろう。だが、そうはならなかった。

ヴィラン達の元に辿り着いた彼女達が見たのは、人質にされている2人の生徒の姿。

「来たか雄英生。それに、掃除屋」

「茶毘……！」

「おっと、下手に動くなよ。こいつら2人とも燃やしちまうぞ？ ……それとも、俺を殺す為に生徒を見殺しにするか？」

恐らく、生徒と一緒に来ていなければそうしただろう。実際、彼女は頭の中でシミュレートしている。

人質も纏めて撃ち抜く事は出来るだろう……が、恐らく生徒の邪魔が入る。この場でヴィランも生徒も全てを敵に回して殺し尽くせるかと言えば否だ。

彼女には生徒の目という枷が付いている。正義では行えない手段を行う為に作られた彼女が正義に縛られる、実に皮肉な事だ。

こうなつてしまえば、例えば人数が上回つていようと、実力が上だろうと何の意味も持たない。

正義に出来るのは、悪の顔色をうかがうだけだ。

「……要求は？」

「取引だ。1人を返してやるから、俺達を見逃せ」

「……呑みましよう」

出来ることは無い。ならばせめて次善を。2人攫われるより1人でも取り戻した方

がいい……なんて、見捨てられる方からしたら納得出来ない理屈か。

「話が早くて助かるよ。コンプレス、鳥頭の方を圧縮して向こうに投げておけ」

これでとりあえず1人は開放された。それと共にヴィラン達の背後にワープゲートが開く。

「ああ、それとついでに掃除屋。死んでくれ」

置土産と言わんばかりに蒼炎が飛んでくる。かつて身体を焼いた炎を、過剰とも言える反応で避ける。当然それは大きな隙となり、ヴィラン達は悠々と撤退して行った。

この日、正義は悪に負けた。

悪を滅ぼせるのは、より大きな悪だけだ。

本編 (5 / n)

これで終わり！ 最終回なRTA、はーじまーるよー。

前回は林間合宿終了まででしたね。という事で爆豪救出……というか神野編です。

生徒プレイの場合は爆豪救出チームに加わるか否かを選びますが今回は教師プレイ。選択肢は3つです。

1つ目は謝罪会見に参加する事。流れに一切関わらず数行の文章だけで神野編を終わらせることが出来ます。勿論今回は称号狙いなので論外です。もっと後までプレイするような時にタイム短縮を狙うならアリでしょう。

2つ目は脳無工場に行く事。これを選んだ場合オールフオーワンのガチバトルが楽しめます。ちなみに確定でオールフオーワンの先手から始まるのでまず勝ち目はありません。通常プレイ、RTAどちらでも選ぶメリットはほぼ無い選択肢と言っているでしょう。強いて言うなら2週目以降の引き継ぎプレイ時くらいでしょうか。ただ（やり込みとしてオールフオーワンを倒すのは、オールフオーワン全盛期の方が人気なので本当にやる意味は）ないです。

今回は3つ目。オールマイトと一緒にヴィラン連合が拠点にしてるBARへと突入

します。ちなみにこのチームには人数制限があるので原作で突入していた人物と入れ替わる形になります。

捕縛系の個性を持っているならシンリンカムイ、そうでないならエッジシヨットかグランドトリノと入れ替わるのがオススメです。

今回のプレイではどちらと入れ替わるかと言うと……両方です。1人連れて行きたいキャラがいるのでその人と自分の2人分原作枠をかつぱらいます。みんなは誰か分かるかな？

さてそれでは突入まで倍速……といきたいところですが、1つイベントをこなすために行動します。適当に1人になれる所に行きましょう。

今回起こすイベントの条件は、爆豪救出の一連のイベントが発生中であること、プレイヤーの善悪度が一定値以下……つまりヴィラン寄りであること、殺人経験があること、ステータスが死柄木弔を上回っていること。以上を満たした上でモブを含めた全ての人間が一定時間以内に会話を聞き取れる範囲に來ない場所にいる事です。

分かりにくい？ 要は悪くて強いヴィランが独りぼっちで居ることです。

イベントの内容を一言で説明すると、オールフォーワンからの勧誘です。

詳しく説明しましょう。まず前提として、オールフォーワンは今のオールマイトにボロボロにされた身体を捨てて新しい身体に乗り換えようとしています。その為兼オー

ルマイトへの嫌がらせとして死柄木弔を育成していました。

ですが人の心は変わりやすいもの。より良い条件を提示されればそちらに転ぶのは世の常です。

つまり、もつと良い肉体候補があるならそつちにしようという事です。オールマイトへの嫌がらせ？ そんなん弔を捨て駒にでもすれば充分曇るでしょ。

画面上でもオールフオーワンから後継者として勧誘されていますね。そうしたら条件として命を要求しましょう。死になさーい！

無茶な要求と思われるかもしれませんが、意外と通ります。成功率は体感9割ぐらいです。後継者にしてオールフオーワン（個性）を継がせてしまえば新しい身体が手に入るから、今の身体への執着が薄いのが理由ですね。

今回も無事に要求を受け入れて貰えました。代わりにオールマイトを殺すように言われましたがどうせ殺すので問題無し！ ヨシ！

このイベントが終わったら次に公安に連絡を取ります。ヴィラン連合本拠地への力チコミをする報告と、ヒーローを1人借りるためです。もういい加減誰だか分かりましたね？ そう、ホークスです。

ホークスを借りる代金はオールフオーワンの殺害だそうです。ついさつきフラグを立てたからヨシ！

更にここで追加イベント……イベント? 追加指令です。内容はオールマイトの殺害。この指令の発生条件はオールフォウンの殺害を計画中であること、オールフォワンとオールマイトの決戦フラグ……つまり爆豪救出のイベントを進行中であること、ヒーローを殺害した経験があること、公安との友好度が一定値以下であることです。

ちよつと時間があるのでなんでそんな指令が出るんだよ! と憤っているホモの皆様に説明を致します。

まずオールマイトは現在日本で最も人気のある人物です。これに異論がある人は居ないでしょう。そんな人間が日本で1番の悪を倒したらどうなるでしょうか。当然民衆は熱狂しますね。

さてここで問題です。権力者が1番恐れることは何でしょうか? そう。権力の座から蹴落とされることです。

という事で自分の権力の衰えを恐れた公安の長はオールマイトを殺す事で憂いを絶とうとします。ついでに衰えたオールマイトの真実を民衆に知られないまま闇に葬れるので一石二鳥です。

因みにこのイベントをこなすと口封じの為に公安に消されてデッドエンドを迎える事になりますが……タイマーストップ後なので問題はありません。悲しいけどこれ、RTAなのよね。

長々と語らせてもいましたがもういいでしょう。突入のお時間です。

オールマイトの拳で突入口を作ってもらったらずはシンリンカムイに捕縛してもらいます。そしてグラントリノの代わりに茶毘を気絶させます。グラントリノは来ないのです。

そして黒霧が脳無を呼ぼうとしたところで彼を殺害します。これは事前に、捕らえられてから個性を使おうとするものに限り殺人許可をオールマイトから貰いました。開幕即殺をしたかったのですが、それをするとオールマイトが敵対します。まだ早い。

ここでヴィラン連合のメンバーを目の前で殺された事でトウワイスが覚醒します。縛られた状態からのサッドマンズパレードは質も量も覆せるだけのポテンシャルがあります……が、今回はガンメタとしてホークスを連れて来ているので彼に任せます。

複製を剛翼で潰し切って、動揺しているところを一刺ししておしまい！ 強個性をメタるのは楽しいぜ！

ちなみにホークス以外でも範囲制圧出来るキャラクターならトウワイスをメタれます。例としてはエンデヴァー、轟焦凍辺りですね。

大体この辺りでオールフオーワンによる転送が発動します。大量に現れる脳無（弱）は他のヒーローに任せてホークスに頼んで脳無工場跡地まで運んでもらいましょう。オールマイトは既に向かっています。

ワープの個性でも持っていない限りはオールマイトに追いつけないので気楽に向かいましょ。オールフオーワンがオールマイトに気を取られている時に辿り着くのが理想です。先程黒霧を抹殺しているので死柄木達に逃げられる事もありませんし。遠くにヴィラン連合が見えてきましたね。状況を整理すると、オールマイト対オールフオーワン。爆豪対ヴィラン連合。隠れてる緑谷達生徒組となっています。

オールマイトの死亡、或いは爆豪の確保によりヴィラン連合は撤退していきます。オールマイトが死亡した場合は転送で逃げ、爆豪を確保した場合は徒歩での逃走となりますが、まあどうでもいいです。逃す気は無いので。

お、緑谷達が爆豪を救出しましたね。さて、それでは戦場に飛び込みましょうか。合図はマウントレディの巨大化です。

この際オールフオーワンとの位置関係でやる事が変わります。今現在は原作と同じでかなりの近距離にいるのでオールマイトとホークスに頼んで遠くに誘導してもらいましょ。会話が聞こえない程度の距離がとれば十分です。

ということでvsヴィラン連合です。原作に比べてトウワイスと黒霧が死んでいるのでちよつと楽です。ちなみに茶毘はコンプレスによりビー玉状態、コンプレスはマウントレディに激突した事により気絶しているので、戦うのは死柄木、マグネ、トガヒミコの3人です。3人に勝てるわけないだろ！ 馬鹿野郎俺は勝つぞ!!

ここで勝つための作戦ですが……ありません。地力で勝ちましょう。と言つても倒さなければならぬのは死柄木だけなので他の2人には逃げられても構いません。ちなみにこちらに有効打を持つのも死柄木だけなので実質1対1です。(謎理論)

ただし、バトルロイヤルでは弱いやつから狙うのが定石。まず狙うべきはトガヒミコです。

彼女の身体能力は所詮女子高生。そして武器も別に業物でもなんでも無い刃物。ゆっくり壁際に追い詰めて全力で顔に一撃入れれば潰れたザクロのようになって終わりです。

次にマグネ。彼……彼女？ とにかくこいつはこちらの性別が分からない場合個性を使つてきません。ただの鈍足な成人男性です。脚に銃弾を撃ち込んで動きを止めるところで頭を撃ち抜いておしまいです。

最後に死柄木。彼の手に生身で触れると即死します……が、覚醒していない彼は何も怖くありません。遠距離を挑みましょう。刃物を使うのもいいです。覚醒していない彼は指一本切り落とせば無個性と化します。

両手を欠損させて。トドメを刺して終わり！ 閉廷！

ちなみにもし覚醒してたらこんな簡単には行きません。というか飛行能力が無いと挑むことすら出来ません。まあそんなクソゲーは始めなければ良いだけです。

雑魚狩りが終わったら死柄木の生首を引っこ抜いてオールフォーワンのところに向かいます。君の後継者死んじやったけど、お前どうする？

これによりオールフォーワンが完全に後継者をプレイヤーに定めます。具体的な効果としてはこの戦いで殺されるように動いてくれます。更に具体的に言うとな衝撃反転などで時間を稼ぐ遅延プレイを行わなくなります。ついでにオールマイトのメンタルにもダメージが入りますがどうでもいいでしょう。殺すので。

という事でオールフォーワン戦 with オールマイトです。やる事は今までと変わりません。脳筋戦法です。原作でもオールマイトがそれで勝ちましたし。

おっと、忘れずにホークスに他のヒーローを纏めて人命救助に行くように命じておきましょう。後でこの命令が役に立ちます。

オールフォーワン戦ですが、数発打ち合えば例の筋骨バネ化、鋌、槍骨……めんどくさいので超強力パンチと呼称します。それを使ってきます。

これに打ち勝つ方法ですが……ありません。負けます。例外はワンフォーオール継承者になる事だけです。

という事で殴り負けます。するとようやくオールマイトが再起動します。もつと早くしろよ……

後は眺めてればオールフォーワンを倒してくれるので待ちましょう。

オールフォーワンが負けたら続いてvs全ての力を使い果たしたオールマイトです。楽勝だぜ！……とはなりません。

というのもオールマイトは正義の心がある限り死なないからです。某スマホゲー風に言うと無限ガッツです。

じゃあどうすんだよ！ とホモはお怒りですが、実は簡単です。反抗心を折りましょう。

まずは1度体力をゼロまで減らします。次に会話イベント、公安からの指令を起こします。最後に会話イベント、ワンフォーオールの継承者を起こします。

このコンボを簡単に説明すると肉体をへし折った上でお前もう要らないって言われるけどどう？ あ、断ったらお前の後継者殺すけど。となります。畜生かな？

人質作戦により無事無限ガッツが解除されたところでオールマイトにトドメを刺します。拳はへし折れてるので銃弾でいいでしょう。え？ 折れた指で引き金引けるのかって？ ゲームだからいいんだよ。

返す刀でオールフォーワンのところに向かって、ちよつとした会話イベントを終わらせて命も終わらせてタイマーストップ。

記録は8時間10分19秒19。世界一です。

さて完走した感想（激ウマギャグ）ですが……ちよつと待って！ ホークス何してん

の!?

はい、画面ではホークスがプレイヤーを攻撃しています。これはもちろんオールマイトを殺した恨み……ではなく、単純に公安に危険対象として処分されてるだけです。多分。最初の方で説明したオールマイト抹殺指令を受けるとデッドエンドになるというのはこういう訳だったんですね。

瀕死にされてホークスに運ばれている光景をバックに完走した感想(2度目)ですが……

短いRTAは、気持ちがいい！ 以上です。

ながーいRTAを見て、俺もやってみたい！ けどあんな長いのを管理するのは無理！ となったホモの皆さん、短めのRTAをやつてとりあえず1本完結させてみましょう！

俺もやっただからさ。

ではご視聴ありがとうございます。またいつか会いましょう。